

知信仰に由てアベルハカインより愈れる祭物を神に獻て義者さ證せられたり蓋神その禮物についで證し給へば也かれ死れども信仰に由て今なほ言へり五信仰に由てエノクハ死ざるやうに移されたり神これを移しうに因て人見出すことを得ざりき彼いまだ移されざる先に神に悦ばるる者さ證せられし也六信仰なくバ神を悦ばすこと能はず蓋神に來る者ハ神あるを信じ且神ハ必ず己を求る者に報賞を賜ふ者なるを信すべけれバ也七信仰に由てノアは未だ見ざる事の示を蒙り敬みて其家族を救ん爲に舟を設けたり之に由て世の人の罪を定めまた信仰に由る義を受べき嗣子となれり八信仰に由てアブラハムハその承繼べき地に往きの命を蒙り之に違ひその往きを知らずして出たり九彼また信仰に由て異邦に在り如く約束の地に寓り同じ約束を相嗣るイサクヤコブと共に幕屋に居り十その神の造營める所の基ある京城を望めバ也十一信仰に由てサラも孕を寓さるる力をうけ年邁しかども子を生子是約束せし者ハ誠信ありしつれば也十二是故に死たる者の如き一人より天の星の多き海邊の砂の數へ難きが如く生出たり十三此等ハ皆信仰を懷きて死り未だ約束の者を受ざりしが遙かに之を望みて喜び地に在て自ら賓旅なり寄寓者なりと言ひ十四如此いふ者ハ家郷を尋る事を表す也十五彼等もしその出し地を念はば歸るべきの機ありしなるべし十六然も彼等ハ更に愈れる所すなはち天に在るを慕へり是故に神ハ其神と稱ることを恥せざりき蓋かれらの爲に京城を備へ給ふれば也十七信仰に由てアブラハムは試られし時イサクを獻たり彼の約束を受し者あるが其獨子を獻たり十八此子に就てハ爾の子孫イサクに由て稱らるべし云れたり十九彼もへらく神ハ死よりの復活し得る事即ち死より彼を受しが如なりき二十信仰に由てイサクハ來らんとする事に就てヤコブエサウを祝せり二二信仰に由てヤコブハ死んとする時にヨセフの二人の子を祝し又その杖の頭に扶て崇拜をなせり二三信仰に由てヨセフハ死んとする時にイスラエルの子孫のエジプトより出る事について語り又その骸骨の事に就て命じたり二三信仰に由て父母ハモーセの生れたる時その美都き子なるを見て三月の間これを匿し又王の命をも畏ざりき二四信仰に由てモーセハ成長し時パロの女の子を稱るるを辭たり二五暫く罪

の樂を享んよりハ寧ろ神の民と共に苦難を受んことを善とし二六キリストの爲に受る詭譎ハエジプトの貨財よりも寶貴さ意へり蓋報賞を認て望ばなり二七信仰に由て彼ハエジプトを離れ王の怒を畏れざりき是見ざる者を見が如く耐忍べば也二八信仰に由て彼ハ逾越節の血を灌ぐ禮を守れり蓋長子を滅す者の彼等に抵ざらんが爲なり二九信仰に由て彼等ハ紅海を陸の如く渉しがエジプトの人ハ之を透らんとして溺れ死たり三十信仰に由り七日の間エリコの城を環巡するに遂にその石垣ぐづれたり三一信仰に由て妓婦のラハバハ信ぜざる者と共に亡ざりき蓋偵者を接て之を平安ならしめたり也三二われ更に何を言んや若ヤオアンバラク並サアソンイヒタダビデ並サムエル及び預言者等の事を言んハ時足ざる也三三かれら信仰に由て諸國を服し義を行ひ約束の者ハ之を繩の口を籍み三四火勢を滅し刃の刀を避け花弱よりして剛強せられ戰爭に於て勇しく異邦人の陣を退かせたり三五婦も亦死たる者の復活を受しとあり亦ある人ハ最も愈れる復生を得べき爲に酷刑られて免るることを欲まざりき三六また或人ハ嬉笑をうけ鞭打れ裸體と圍圍の苦を受三七石にて撃れ網にてひかれ火にて焚れ刃にて殺され綿羊と山羊の皮を衣て經あるき窮乏して艱苦めり三八世ハ彼等を居に堪す彼等ハ曠野と山と地の洞と穴とに周流たり三九彼等ハ皆信仰に由て美名を得たれども約束の所を得ざりき四十その彼等も我儕と儗ならざれば成全すること能はざる爲に更に愈れる者を神預じめ我儕に備へ給へり

第十一章 一是故に我儕かく許多の見證人に雲の如く圍れたれば諸の重負を樂る罪を除き耐忍びて我儕の前に置れたる戰場を趨り二イエス即ち信仰の先導となりて之を成全する者を望むべし彼ハ其前に置たるの喜樂に因てその恥をも厭はず十字架を忍びて神の寶座の右に坐しぬ三なんぢら倦疲れて心を喪ふこと莫らん爲に惡人の如此おのれに逆ひしをも忍ぶる者を思ふべし四なんぢら惡を争ひ拒て未だ血を流に至らず五また子に告るが如く告給ひし言を爾曹忘れたり曰く我子よ爾主の懲治を輕する勿れ其證責を受るべき心を喪ふ勿れ六その主その愛する者を懲め又すべて其納る所の子を鞭てり七なんぢら若この懲治を

忍びて神の子の如く爾曹を待ひ給ふなり誰か父の懲めざる子あらん乎 衆人の受る懲治も爾曹に無ばそ
 は私子にして實子に非ず九又我儕の肉體の父は我儕を懲めし者なるに尙これを敬へり況て靈魂の父に服ひ
 て生を得ざるべけん乎 十肉體の父の其心に任せて暫く我儕を懲む然るに靈魂の父は我儕に益を得しめて其聖
 潔に與らせんがため懲むるを爲す十一凡の懲治今悦しからず反て悲意の然るに由て鍛錬す
 る者に義の平康なる果を結びせり十二是故に爾曹疲たる手弱たる膝を健にせよ十三足蹇たる者の迷ふ
 となく痊されんが爲爾曹の足に平直なる徑を備ふべし十四爾曹衆の人と和睦をなし自ら潔らんとを
 務めよ人もし潔らすべし主に見ゆるを得ざるあり十五爾曹慎めよ恐らく神の恩寵に及ばざるものあらん
 憐れみの根生いで爾曹を擾さん且多くの人之に因て汚るべし十六恐らくエサウの如く淫を行ひ妄なる
 事をなす者あらん彼の飯のために長子の業を譲り十七其の祝福所の福を嗣んとを求めたれども終に棄ら
 れ涙を流して志を挽回さんせしを得ざる能はざりし爾曹の知事ころ也十八爾曹の近ける所へ押る
 べき山に非ず或は燄たる火あるひに密雲あるひに暴風十九あるひに狼の音あるひに言語の聲に
 も非ず此聲を聞きし者再び言をもて語給はざるを求へり二十その黙さへ若し山に觸なば石にて撃るべ
 しと命ぜられしを彼等忍ぶこと能はざりし故なり二十一その見しころ極て畏しかりければモーセも我甚く
 恐懼戦慄りて曰り三然るに爾曹の近ける所へシオンの山また活神の城なる天のエルサレムまた千萬の衆す
 なりち天の使の聚集三三天に録されたる長子どもも教會また衆の人を鞠く神もよび成全せられたる義人
 の靈魂二四新約の中保なるイエス及び濯ぐ所の血あり此血の言さるるハアベルの血のいふ所より尤も愈れ
 り二五慎みて告る所の者を拒む勿れ若し地にて示せる者を拒し彼等免るる事なかりしならん況て我儕天よ
 り示せる者を拒て免るることを得んや二六昔其聲地を震へり今彼つけて曰く我また一次地ののみならず
 天をも震はん二七この再一次言るる震るべき者の震られんことを示す此等の造られたる震はれざる者
 の存んため也二八是故に我儕震れざる國を得たれば恩に感じて度み敬ひ神の意旨に合ふ所をもて之に事ふ

べし二九夫われらの神の燬盡す火なり
第十三章 一なんぢら恒に兄弟の相愛する心を存べし二遠人を接待事を忘るる勿れ或人かく行たれば
 知すして天使を接待せり三己ごもに囚るるが如く囚者を念へ爾曹も亦身に在るが故に苦む者を念ふ
 べし四なんぢら婚姻の事を凡て責め又牀をも汚すこと勿れ神の荷合また好淫する者を審判たまはん五なん
 ぢら世を過るに貪ることをせず有るを以て足りさせよ蓋われ爾を去す更に爾を棄じよ云給ひたれば也六
 然るに我儕毅然して曰べし主われを助る者なれば畏なし人われに何をか行んよ七神の道を爾曹に教へ爾曹を
 導く者を念へ其行の果を觀てその信仰に效ふべし八イエスキリストハ昨日も今日も永遠變らざる也九
 萬殊なる教と異なる教に揺蕩さるる事勿れ恩に由て心を堅固せられ飲食に由ざる善し飲食に由て行
 ひたる者の益する所なりき十我儕に祭壇あり此上の物を幕屋に事する人へ食ふことを得ざる也十一祭司の長
 罪を贖はんが爲に獸の血を携へて聖所に入その獸の體を營外にて焚り十二是故にイエスも己の血をも
 て民を潔んが爲に門の外に苦を受しなり十三然るに我儕も彼の訴評を負て營外に出かれに往べし十四我
 儕こゝに在て恒に存つべき城邑なし惟きたらんとする城邑を求む十五是故に我儕かれに由て恒に讚美の祭を
 神に獻べし即ち其名を頌る唇の果なり十六然るに善を行き施捨を行き忘るる勿れ此の如き祭ハ神に
 れを悦べば也十七爾曹を導く者に循ひて服すべし彼等己が事を神の前に訴ふべき者なるが故に爾曹の靈
 魂のために守ることを爲すべし彼等を欺せず欺びて守ることを爲しむべし然るに爾曹に益なし十八なんぢ
 ら我儕のために祈禱せよ我儕よ心ありて凡の事に善行をなさんことを信すれば也十九われ尙も速
 に爾曹に歸ることを得んが爲に爾曹の祈んことを更に求む二十願くは窮なき契約の血に由て羊の大牧者
 なる我儕の主イエスキリストを死より甦らしめ平安の神二二イエスキリストに由て其悦ぶ所を爾曹の心
 の中に起し又爾曹をして其旨を行はせんが爲に凡の善事に於て爾曹を全うせしむべし榮光かれに歸し
 て世々暨ながらんアメン〇二三兄弟よ今われ爾曹に略き贈りたれば我も勸の言を容んことを請二三我

儕が兄弟テモテの釋されし事を爾曹知べし彼もし速りに來らば我れと偕に爾曹を見ん 二四 請すべて爾曹を導く者および諸の聖徒に安を問イタリヤより來りし者も安を爾曹に問リ 二五 願くは恩寵なんぢら衆の人と偕に在んことをアメン

新約全書希伯來書終

新約全書使徒ヤコブの書

第一章 一神および主イエスキリストの僕ヤコブ各處に散たる十二の支派に安を問ニわが兄弟よ若んぢら各様の試誘に遇べ之を喜ぶべき事すべし 三蓋なんぢらの受る信仰の試みハ爾曹をして忍耐を生ぜしむる事知べなり 四 さんぢら 全く且備りて 缺る所なからん爲に忍耐をして 全く働かしめよ 五 爾曹の中もし智慧足る者あらば 夫の答るべき事なくして 衆人に予る神に求めよ 然らば 予られん 六 然らば 疑ふことなく 信じて之を求むべし 疑ふ者ハ風に撼されて 翻へる 海浪の如し 七 斯の如き人ハ 主より何物をも受る事想ふ勿れ 八 斯の如き人ハ 貳心にして 其行ふ所の事すべて 定準なし 九 卑き兄弟ハ 其高せらるる事を喜樂せよ 十 富る者ハ 其卑せらるる事を喜樂せよ 蓋草の花の如く 逝べければ 也 十一 それ日出て 熱し草を枯せば 其花も 其美しき容きゆ 富る者も 亦かくの如く 其爲さるる牛にして 已まづ亡ん 十二 忍て 試誘を受る者ハ 福なり 蓋さるるみを経て 善せらるる時ハ 生命の冕を受べければ 也 十三 この冕ハ 主已を愛する者に約束し 給ひし所のもの也 十三 誘るる者ハ 神われを惡に誘ふ言を 神ハ惡に誘れず 亦人をも惡に誘ひ給はず 十四 人惡に誘るる己の慾に引れて 誘はるる也 十五 欲すてに 孕て 罪をうみ 罪すてに 成て 死を生 十六 わが愛する兄弟よ 自ら欺く勿れ 十七 凡の善賜と 全き賜ハ みな上より 諸の光明の父より 降るなり 父ハ 變ること 無また 轉動て 顯るる影も なき者なり 十八 己の旨に 循ひ 眞道を以て 我儕を生り 是我儕をして 其造る所の物の中にて 初に 結べる 果の如き者ならしめん 爲なり 十九 是故に 我が愛する兄弟よ 人の怒ハ 神の義を行ふ事を せされば 也の 一 聽こを 速りに 語ること 徐し 怒こを 徐すべし 二十 人の怒ハ 神の義を行ふ事を せされば 也 二 然らば 諸の汚穢と 多の邪惡を して 柔和を以て 爾曹の心に 瘡たる所の 靈魂を 救得る 道を 受べし 二三 ならんぢら 道を行ふ者なるべし 徒これを開のみにして 自己を 欺く者なる勿れ 二三 それ道を開のみにして 之を行はざる者ハ 鏡に向て 本來の面を みる人に 似たり 二四 己を照し 觀て 去のち 直に 其如何なる 相貌なりしかを 忘る 二五 然らば 自由なる 全き 律法を 切々に 觀て 離れざる者ハ 是功を行ふ者にして 聞て 忘るる者に 非

斯人その行ふところ 福あらん 二六 爾曹のうち誰か若くし神に事する者か意ひて其舌に響をつけず自ら其心を欺き其事をこころ徒然なり 二七 神なる父の前に潔くして穢なく事するこころの孤子と寡婦を其患難の中に眷顧また自ら守て世に汚れざる是なり

第二章 一 わが兄弟 爾曹の主なる我儕の主イエスキリストの信仰の道を守らん人に人を偏視るこゝろ勿れ 二 もし人金環をへめ美しき衣服を着て 爾曹の會堂に來り又貧しき人汚れたる衣服を着て來らん に三 ならんら美しき衣服を着たる人を顧みて 爾曹の榮位に坐れ 曰また貧者に 爾曹に立さい 或は我が足下に坐れ 曰わ 爾曹の各人のうち區別を立また 惡念を以て人を分ものにして非ずや 五 我が愛する兄弟 爾曹の神の貧者を選て信仰に富せ 己を愛する者に約束し給ひし所の國を嗣べき者ならしめ給ふに非ずや 六 然るに 爾曹の貧者を藐視たり 爾曹を凌辱また裁判所に曳もの 富者に非ずや 七 彼等ハ爾曹の稱らるる所の美名を諱する者に非ずや 八 爾曹も 爾曹の隣を愛すべしと云ふる實き法を守らば 其行ふところ善九 然ど若し人を偏視るこゝろをせば 是罪を行ふあり 律法爾曹を定めて罪人せせん 十 律法を悉く守るも若し 爾曹の隣を愛すべしと云ふる實き法を守らば 其行ふところ善九 然ど若し人を偏視るこゝろをせば 是罪を行ふあり 律法爾曹を定めてまた殺すこゝろ勿れと言ふ 爾曹を殺すも若し殺すこゝろをせば 律法を犯す者なる也 十二 ならんら言るこゝろ行ふこゝろ自由の律法に循て 鞫を受んとする者の如くすべし 十三 憐れむこゝろをせざる者ハ鞫かるる時また憐れむこゝろ無らん 憐れむに勝なり 十四 わが兄弟 爾曹の各人自ら信仰ありと言て若し行ふくば 何の益あらん乎 その信仰いで彼を救ひ得んや 十五 もし兄弟あるひハ姉妹裸躰にて 日用の糧に乏らん 十六 爾曹のうち或人これに曰て 安然にして往け 願くハ 爾曹を温かにして 飽くこゝろを得よと而して 其身體に無てならぬ物を之に手す 何の益あらん乎 十七 此の如く信仰もし行を兼ざるこゝろをせば 乃ち死るなり 十八 或人いば 爾曹の信仰あり 我行あり 請なんぢが行を兼ざる信仰を我に示せ 我ハ我が行に由て我が信仰を爾に示さん 十九 なんぢ神ハ惟一なりと信す如此信するハ善し 惡鬼も亦信じて 戰慄り 二十 あり愚なる人ハ 行を兼ざる信仰

の死るこゝろを 爾知さん 欲ふや 二 我儕の先祖 アブラハム その子 イサク を壇の上に獻て 義せられたるハ 行に由り非ずや 三 其の信仰 仰り共々に 働き且行に由りて 信仰全備を得たるを 爾見べし 三三 此の聖書に録して アブラハム 神を信す 其信仰を義せられたり 有に 應へり 彼また 神の友と稱れたり 三四 ならんぢら人の義せらるるハ 信仰にのみ由り非ず 行に由りて 己の義を知るべし 三五 また 妓婦 ラハバ 使者を受て 己の義を他の途より去しめて 義せられたるハ 行に由りて 非ずや 二六 身もし 靈魂はなるれば 死るこゝろ 信仰も 行ひ離れば 死るなり

第三章 一 わが兄弟 爾曹多く 師となる可らず 蓋われら師たる者の審判を受ると尤も 重き知べなり 二 われらハ 皆まばく 愆を爲る者なり 人もし 言に 愆なくば 是全人にして 全體に響を置得るなり 三 夫われら馬を己に馴らせんとして 其口に響を置き 其全體を馴すべし 四 舟も亦その形ハ 大く且 狂風に追はるるも 小舟を以て 舵子の意の隨に之を運すなり 五 此の如く 舌も亦 小舟にして 誇るこゝろ大あり 視よ 微火いかに 大なる 林を燃すや 六 舌ハ 即ち 火すなり 惡の世界なり 舌ハ 百體の中に 備りありて 全體を汚し 又全世界を燃すなり 舌の火ハ 地獄より 燃出 七 その各類の 戰禽 昆蟲 海に在るもの 皆制を受た 既に人に制せられたり 然ど 人たれも 舌を制し 能はず 乃ち 抑わたり 惡にして 死毒の充るもの也 九 我儕これを以て 主なる父を祝したるも 神の形に 像りて 造られたる人を 誣ふ 十 祝と 誣の口より 出わが 兄弟 無よ 此の如き事ハ 有べきに 非ず 十一 泉の源ハ 一穴より 甘水と 苦水と 並に出さん乎 十二 わが 兄弟 無花果の樹 橄欖の果を結び 或ハ 葡萄の樹 無花果の果を結ぶこゝろを得んや 斯の如く 泉の源 鹹水と 淡水と 並に出すこゝろ 能はず 十三 爾曹のうち 智くして 聰明ものハ 誰なるや 柔和なる 智慧を以て 善行を彰すべし 十四 然ど 若なんぢら 心の中に 苦嫉と 忿争を懷かば 是眞理に背なり 眞理に背て 誇る勿れ 又 謙る勿れ 十五 斯る 智慧ハ 上より 下るに 非ず 地に 屬するもの 情慾に 屬するもの 惡魔に 屬するもの也 十六 其ハ 娼妓と 忿争ある所に 亂れ 諸般の 惡事と あれ 十七 然ど 上よりの 智慧ハ 第一に 潔く 次に 平和 寛容 柔順 かつ 矜恤と 善果 分ち人

を偏視す亦偽なきもの也十八義の果ハ平和を行ふ者の平和を以て種に由て結ぶなり

第四章 一爾曹の中の戦闘を争競ハ何より來しや爾曹の百體の中に戦ふ所の怒より來しに非ずや 二爾曹
貪れども得ず殺すことをし嫉を爲すも得ず能ハず爾曹争競を戦闘せり爾曹ハ求むるに因て得ざる也三
なんぢら求てなほ得ざるハ爾曹怒のために費さんとして妄に求むる故なり 四姦淫を行ふ男女ハ爾曹世を
友とするハ神に敵するなるを知らんや世の友ならん事を欲ふ者ハ神の敵なり 五聖書に神の我儕の衷に住
しめ給ふ靈熱心を以て我儕を愛むと言ふを爾曹虚きことと思ふや 六神更に大なる恩恵を予ふ此に由て
いふ神ハ驕傲者を拒ぎ謙卑者に恩を予ふは七是故に爾曹神に服へ惡魔を拒げ然れバ爾曹を逃去ん
八なんぢら神に近ければ神なんぢらに近き給はん罪人ハ爾曹の手を淨せよ二心の者ハ爾曹の心を潔く
せよ九なんぢら苦め哀め哭なんぢらの笑を哀哭に易ふ爾曹の歡樂を憂に易ふ十自己を主の前に卑せよ然
レ主さんぢらを高せん十一兄弟互に誇る勿れ兄弟を誇る或ハ兄弟を議する者ハ律法を誇り律法を
議するなり爾もし律法を議せば律法を行ふ者に非ず律法を議する者なり十二律法をたて人を議する者ハ惟
一なり彼ハ救ふこと滅すことを爲得る也なんぢ誰なれば隣を議する乎十三われら今日明日某の邑にゆき彼
處に一年さまり賣買して利を得んといふ者ハ十四なんぢら明日の事を知ず爾曹の生命ハ何ぞ暫く現は
途に消る霧なり十五爾曹の言に易て如此いへ主もし許し給へど我儕活て或ハ此事あるハハ彼事を行ん
と十六然ぞ今なんぢら驕りて誇るとを爲凡て此の如き誇り惡かり十七人善を行ふ事を知て之を行はざるハ
罪あり

第五章 一富者ハ爾曹既に來らんとする禍害を思て哭叫べし二爾曹の財ハ朽なんぢらの衣服ハ蠹

ひ三爾曹の金銀ハ銹腐れり此銹證を爲て爾曹を攻りつ火の如く爾曹の肉を蝕ん爾曹この末の日に在りては
財を蓄ふるをせり四視よ爾曹が其田を獲せし雇人に予さる値ハ叫び其刈し者の呼聲ハ既に萬軍の主の
耳に入り五なんぢら地に在て奢樂み屠らるる日に在て尙その心を悦べせり六なんぢら義者を罪に

定め且これを殺せり彼なんぢら拒ざりき七兄弟忍て主の臨るを待べし視よ農夫地の貴き産を得を望

みて前さ後この雨を得まで久く忍て之を待り八爾曹も忍べ爾曹の心を堅せよ蓋主の臨り給ふこと近ければ也
九兄弟よ爾曹互に怒ること勿れ恐る罪に定られん視よ鞭するもの門の前に立ち十兄弟よ爾曹主
の名に託て語りし預言者を苦さ忍さの式さすべし十一われら忍ぶ者ハ福なりさ意ふ也なんぢら曾て曰ブ
の忍を聞きしに彼に行給ひし乎その結局を見よ即ち主ハ慈悲深く且矜恤ある者也十二兄弟よ一切
誓ふ勿れ或ハ天あるハ地あるハ他物を指て誓ふ勿れ爾曹是を是とし否を否さすべし恐るハ爾曹
罪に定られん十三爾曹のうち誰か苦む者ある乎あらば祈禱せよ誰か喜ぶ者あるか有べその人讚美せよ十四爾
曹のうち誰か病る者ある乎あらば教會の長老等を招くべし彼等主の名に託て其人に膏を沃ぎ之が爲に祈
ん十五それ信仰より出る祈禱ハ病者を救ふべし主これを起さん若し罪を犯し事有れば救れん十六なんぢら
互に過ちを認めし且病を瘳ることを得ん爲に互に祈るべし義者の篤き祈禱ハ力ある者あり十七
エリヤハ我儕と同情の人なり彼雨降ざることを切に祈りければ三年六ヶ月の間地に雨降ざりき十八
また祈りければ天より雨ふりて地その産を萌出せり十九わが兄弟よ爾曹のうち或ハ眞の道より迷る者あ
らん誰か之を引反さば二十此人知べし罪人を其迷る道より引反すハ乃ち其靈魂を死より救かつ多の
罪を掩ふことを

新約全書雅各書終

新約全書使徒前書

第一章 イエスキリストの使徒ペテロ書をホントガラテヤカパドキアアシアビテニアに散て處れる者
二即ち父なる神福音に順はしめイエスキリストの血に灑れしめんとして其預じめ知たまふ所に循ひ靈
の聖潔をもて選び給ひし人々に贈る願くハ爾曹に恩寵と平康の増んを三讀べきかな神われらの主イエス
キリストの父かれ其大なる給恤を以て我儕を再び生我儕をしてイエスキリストの 甦り給ひしことにより
活る望を得させ四亦われらの爲に天に藏ある朽す汚れす衰へざる嗣業を得しめ給ふなり五なんぢら信仰に由
て神の能に護られ已に備ある所の末時に顯れんとする救を得なり六之に由て爾曹喜べり今暫く各様の
艱難に遇て憂ざるを得ずと雖も却て喜をなせり七爾曹の信仰を試みらるるハ壞る金の火に試みらるる
よりも貴くして爾曹イエスキリストの顯れ給はん時に稱讚と尊貴と光榮を得に至らん八爾曹イエスを見ざれ
ども之を愛し今見すといへども信じて喜ぶ其快樂ハ言わたく且榮光あり九蓋なんぢら信仰の 効すなほち
靈魂の救を得るに因十爾曹が受る所の恩を預言せし預言者等ハ此救に係る事を探索かつ推究れた
り十一即ち彼等その衷に居キリストの靈キリストの受んとする苦難と其のち得んとする榮を預じめ證し
たる此ハ何の日いかなる時を示せるか推究れたり十二彼等ハ默示を蒙りて其傳る所の事おのれの爲に非
ず爾曹の爲なることを知り其傳へし事ハ今天より遣り給ふ聖靈に由て福音を傳る者の爾曹に告る所の事なり
斯事ハ天の使等も知んことを欲へり十三然ハ爾曹心の腰に帶して慎みイエスキリストの顯れ給ふ時なん
ぢらに來らんとする恩恵を疑はずして望むべし十四なんぢら孝子なるに因て從前の蒙味時の慾に效ふことな
く十五爾曹を召給ふ聖者に效て凡の行を潔すべし十六その録して我潔けれハ爾曹も潔すべし七有バ
なり十七人を偏視す各人の行に由て鞠く者を爾曹もし父と呼ば世に寄れる日を懼れて過すべし十八蓋な
んぢら贖はれて先祖より傳りたる徒き行より離れしハ銀や金の如き壞る物に由り非ず十九疵なく汚なき羔
の如きキリストの寶血に由ることを知りて二十キリスト世基を置ざりし先に定られ此末時に爾曹の

ためあらはたまふに顯れ給へり二三爾曹ハキリストを魅らせ且これに榮を予へ給ひし神をキリストに由て信する者なり是故に爾曹の信仰を望み神に由り二三爾曹すてに靈により眞理に循ひて靈魂を潔め偽なく兄弟を愛するに至れば潔心をもて互に篤く相愛すべし二三爾曹が再び生るるの壞へき種に由り非す壞へからざる種すなりち窮なく存つ神の活る道に由り四それ人既に草の如く其榮ハ凡の草の花の如し草ハ枯その花ハ落二五然ご主の道ハ窮なく存なり爾曹に宣傳する福音ハ乃ちこの道なり

第二章 一是故に爾曹すての怨恨すての詭譎また偽善媚嫉および諸の謗言を棄て二今生れし嬰兒の乳を慕ふ如く爾曹心を養ふ眞乳を慕ふべし此に由て爾曹長て救に至らん三なんぢら嘗て主を仁ある者ぞ知たらんにハ斯の如すべし四主人に棄られ給へし神に選れたる貴き活石なり五爾曹かれに來り活石の如く建られて靈の室となり亦潔き祭司となりイエスキリストに由て神に悦ばるる靈の祭物を獻べし六その聖書に録して我選し所の貴き隅の首石をシタンに置こを信する者ハ辱しめられじ有べなり七この石信する爾曹にハ貴き物となり信せざる者にハ工師に棄られて隅の首石となれる石となり八また蹟く石礙ぐる岩を爲なり彼等ハ道を信せざるに因て之に蹟く此ハ彼等かく定られたる也九爾曹に選れたる族王なる祭司聖民神に屬する者なり此ハ爾曹をして召て幽暗より出し其異光に入給ひし者己の徳を顯さしめん爲に爾曹を此の如き者ぞなし給へる也十爾曹ハ素民に非す然ハ今神の民なる素矜恤を受す然ご今矜恤を受たり〇十一愛する者ハ我爾曹に勸む爾曹ハ賓旅また寄寓者なれば靈魂に逆ひて戦ふ肉の慾を去べし十二又なんぢら異邦人の中に在て善行を作べし是爾曹を誇りて惡を行ふ者ぞ言る異邦人をして爾曹の善行を見て眷顧たまふ日に神を崇しめん爲なり十三なんぢら主の爲に凡て人の立つ所の者に服へ或ハ上にある王十四或ハ惡を行ふ者を罰し善を行ふ者を賞る爲に王より遣されたる方伯に服ふべし十五蓋なんぢら善を行ふを以て愚なる人の無知の言を止るハ神の旨なれば也十六なんぢら自由なる者の如くせよ然ご其自由を以て惡を掩ふことさく神の僕人の如すべし十七衆の人を敬ひ兄弟を愛し神を畏れ王を尊ぶべし〇

十八 僕ある者ハ畏懼を以て主人に服ふべし只善良者柔和なる者にのみならず苛刻者にも服ふべし十九人もし受べからざる苦難をうけ神を敬ひて之を忍ばば嘉べき事なり二十爾曹もし過をなし挫れて之を忍ぶも何の嘉べき事ならん乎されば若し善をなし苦められて此を忍ばば神に嘉稱を得べし二三爾曹の召れたるハ之が爲をり蓋キリスト爾曹の爲に苦をうけ爾曹をして己の跡に隨はしめんさて式を爾曹に遺し給へば也二三かれ罪を犯さず又その口に詭譎をかりき二三かれ誦られて誦らす苦られて厲言を出さず口義を以て鞠く者之を託たり二四彼木の上に懸て我儕の罪を自ら己が身に任給へり是我儕をして罪に死て義に生しめん爲なり彼の鞭扑れしに因て爾曹醫れたり二五それ爾曹ハも羊の如く迷たりしが今なんぢらの靈魂の牧者監督に歸れり

第三章 一妻ある者ハ爾曹その夫に服ふべし若し教に循はざる夫あらば教に由す妻の行に由て服はん二その爾曹の敬懼を以て潔き行をなすを見に因てなり三爾曹の妝飾ハ髪を辨金を掛また衣を着るが如き外面の妝飾に非す四たゞ心の内の隠たる人すあハち壞ることさき柔和恬靜なる靈を以て妝飾すべし此靈の妝飾ハ神の前にて價貴もの也五昔神に依頼みし聖女も其夫に服ひて此の如く己を飾たり六サラアブラハムに服ひて之を主と稱しが如し若なんぢら善を行ひ何事も懼すべ即ちサラの子たる也七夫たる者ハ爾曹も妻を遇ふこと弱き器の如くし理に循ひて之と同居これに敬ふこと生命の恩を嗣者の如くすべし是なんぢらの祈禱に阻礙なからん爲なり〇八終に我これを言ん爾曹みな心を同うし互に體恤兄弟を愛し憐み謙遜九惡を以て惡に報る勿れ訴を以て訴に報る勿れ却て此の如き人の爲に福を求むべし蓋なんぢらの召れたるも福を嗣ん爲なれば也十それ生命を愛して佳日を送らんご欲ふ者ハ舌を禁て惡を言す唇を緘て詭譎を言ざらんご十一惡を避て善を行ひ和睦を求て之を追べし十二その主の目ハ義人の上に止り其耳ハ義人の祈禱に傾き主の面ハ惡を行ふ者に向て怒れば也十三爾曹もし熱心に善を行ハば誰か爾曹を害はん乎十四縦ひ義き事の爲に苦めらるるごも爾曹福なる者なり人の爾曹を威嚇

を畏るゝ勿れ亦憂る勿れ十五なんぢら心の中心に主なるキリストを崇むべし亦爾曹の衷にある望の緣由を問人に柔和さ畏懼を以て答をなさんとを恒に備ふ十六つ答るべき善良心に從ふべし是なんぢらを惡を行ふ者さ誣なんぢらがキリストに在て行ふ善行を誇る者の自ら愧ん爲也十七若し爾曹が善を行ふに因て苦を受ると神の意旨ならん惡を行ふに因て苦を受るに愈れり十八キリストも一次罪に因て苦を受く義者不義者の爲にせり是我儕を引て神に至んさてなり彼の肉體の殺れ其靈の生されたり十九彼その靈を以て獄にある靈に宣傳へたり二十この獄にある靈の昔ノア方舟を備る間神の忍て待給へるさき從りざりし靈なり此方舟にいり水に由て救れし者も僅にして惟八人なりき二一其水に由て表したるバプテスマイエスキリストの復生に由て今我儕をも救ふ此バプテスマハ肉體の汚穢を除くに非ず善良心神を求むるなり二二イエスキリストハ天に往て今神の右に坐せり諸の天使權威ある者能ある者みな彼に服ふなり

第四章一キリスト既に我儕の爲に肉體に苦難を受給ひたれば爾曹も亦その心を以て自ら體ふべしその肉體に苦を受し者ハ罪を斷たれば也二これ今より後人の慾に循へず神の旨に循ひて肉體に寓れる餘時を過ん爲なり三夫我儕既に往にし日ハ異邦人の心に從ひて好色私慾沈溺醉興酒宴偶像を祭る憎べき事を行て既や足り四なんぢら彼等さ僧に放蕩の極に趨ざるに因て彼等これを怪みて爾曹を誇るなり五これら生者死者を鞠んさ備を爲る者に己の事を陳ん六福音ハ死し者に宣傳へたり蓋彼等をして其肉體の人に由て審判を受るも其靈ハ神に由て生命を得しめん爲也七萬物の末期過けり是故に慎みて自ら制することを爲し祈禱すべし八何事よりも先たがひに篤く相愛することをすべし蓋愛ハ多の罪を掩はなり九なんぢら互に若こさなく接待すべし十神の各様の恵を司る善家宰の如く各人その受し所の賜を以て互に施すべし十一人もし道を語らば神の示意ひて語るべし人もし服役を作らば神の賜ふ能意ひて服役を作べし是イエスキリストに由て毎事に神に榮の歸せん爲なり夫榮さ權ハ神に歸して世々に至る也アメ

○十二愛する者ハ爾曹を試むる火の如き苦を非常事の如くして爾曹異さする勿れ十三卻てキリストの爲に與るを以て歡樂さすべし然バ其榮の顯れん時また爾曹喜び躍らん十四若なんぢらキリストの名の爲に勝れなば福なり蓋榮の靈すなはち神の靈なんぢらの上に止れば也キリストハ彼等に讀され爾曹に崇らるゝ也十五爾曹の中あるひハ人を殺し或ハ盜をなし或ハ惡を行ひ或ハ狼に人の事に干渉なとして苦に遇もの有され十六若キリストアンたるに因て苦に遇ば羞ること勿れ却て之に縁て神を崇むべし十七そハ神の家を首として世を審判するさき己に至らばなり若し我儕は首に審判せらるゝ時ハ神の福音に從はざる者の其結局は如何ぞや十八もし義者備じて救るゝを得ば神を敬はざる者さ罪人ハ何處に立んや十九是故に神の旨に循ひて苦に遇ものハ善を行ひて其靈魂を信すべき造物者に託すべし

第五章一キリストの苦を親く見て證をなし且顯れんさする榮に與ることを得る者なる長老たる我なんぢらの中に我さ同く長老たる者に勤む二爾曹の中にある神の羊の群を牧これれを牧司さるに止を得ずして爲す好てなし利を貪るために爲す樂みて爲べし三又なんぢら託せられたる者に主さ爲べからず羊の群の式さ爲べし四なんぢら牧者の長の顯れん時に壞ることなき榮の冠冕を得ん五また幼者に勤む爾曹長老に服へ且互にみ相服ひて謙遜を衣ふ夫神ハ驕傲者を拒ぎて謙遜者に恩を與給ふなり六是故に爾曹神の大能の手下に己を卑すべし期至らば彼なんぢらを高せん七爾曹その憂慮さころを悉神に託すべし蓋かれ爾曹を顧みたまへばあり八謹慎敬醒なんぢらの敵ある惡魔吼る獅子の如く偏行て吞べき者を尋ぬ九なんぢら信仰を堅く之を棄け蓋なんぢら世にある兄弟の同く此苦を受るを知らなり十諸の恩恵を予ふる神すなはち爾曹をして暫く苦を受る後キリストイエスにある窮なき榮に入しめんさて爾曹を招きし神爾曹を全うし堅く強して基の上に置給ふべし十一願くハ榮光さ權力世々神に在アメン○十二われ意ふにシルワノハ忠信ある兄弟なり我片の言の書を彼に託れ爾曹に贈て勸をなし且なんぢらが立さころの恩は乃ち神の眞恩なることを證せり十三パピロンに在所の爾曹さ共に選れたる教會なんぢ

らに安を問また吾子マコも爾曹に安を問り十四もんちら愛の接吻を以て互に安をさへ願くハキリストイエスに在なんちら衆に平康あらん事をアメン

新約全書使徒彼得前書終

新約全書使徒ペテロ後書

第一章 イエスキリストの僕また使徒なるシモンペテロ我儕の神を救主イエスキリストの義に由り我儕が受し所と同じ貴き信仰の道を受し者に書を贈る二願くハ神と我儕の主イエスを識り因て爾曹に恩寵と平康の増んことを三神その能力に循ひて生命と敬虔に係る凡のものを我儕に賜へり是れら榮と徳を以て我儕を召し給し者を識り由てより四また神その榮と徳に因て至大なる貴き約束を我儕に予へ給へり此ハ爾曹をして此約束に由て世にある所の怨の敗壞を脱かれ神の性質を有しめん爲あり五是故に爾曹勤て信仰に徳を加へ徳に智識を加へ六智識に擯節を加へ擯節に忍耐を加へ忍耐に敬虔を加へ七敬虔に兄弟の睦を加へ兄弟の睦に愛を加へ八此等のもの若なんちらの衷に在て彌増さきハ爾曹われらの主イエスキリストを識るに怠ることなく又實を結ぶること無に至らん九此等のものなき者ハ首をり遠く見ること能はず且その舊き罪を擯られし事を忘るる也十是故に兄弟よ勤て爾曹の召れし事を堅固せよ若前に告たる事どもを行ハハ爾曹いつまでも躓くこと莫らん十一此の如ハ神なんちらに我儕の主なる救主イエスキリストの永遠國に入るの恩を豊に予へ給ふべし十二是故に恒に我なんちら此等の事を知かつ既に受たる眞道に堅けれど尙なんちらに此事を憶起させんとして怠らざる也十三我この幕屋に居あひだ爾曹に此事を憶起させて爾曹を勵すハ當然のこころ意へり十四蓋われらの主イエスキリストのわれに示し給へる如く我わが幕屋を離るることこの近を知らばなり十五我また爾曹をして我が世を去ん後にも常に此等の事を憶起さしめんことを勤十六われら前に爾曹に我儕の主イエスキリストの能力と其顯れ給ふことを告るに巧なる奇談を用ざりき我儕の親く其大なる威光を見し者なり十七至大なる榮光の中より聲ありて彼を呼べり我心に適ふ我が愛子なりと曰る此時かれハ神なる父より尊き榮を受たり十八われら彼と偕に聖山に在し時この天より出し聲を聞り十九殊に預言者の確言われらに在この言ハ暗處に輝る燈の如きものなり夜の明るまで明星の爾曹の心の中に出るまで之を顧みば善二十まづ首に知べき事ハ聖書の諸の預言ハ預言

者おのれの意を以て示せるに非ざるを知らんこと也 二一それは預言は素より人意に由て出に非ず神に屬する聖人 聖靈に感じて語りし者なれば也

第二章 昔し民の中に偽の預言者ありき其ごとく爾曹の中にも偽の師いでん彼等は淪亡に至る異端を傳へ且おのれを贖ふ主を主とせしめて速に淪亡を自ら取べし 二また多の人かれらの好色に效はん眞道これに由て誘騙を受ん 三かれら貪婪心に由て造言を設け爾曹より利を取ん 四彼等の審判は昔より定められ遅りらじ彼等の淪亡の寐す 四神さきに罪を犯し 天使を容さす之を地獄に投いれ之を幽穴に置之を禁錮彼等をして審判の時を待しめ給へり 五また古世を容さす洪水を以て神を敬はざる世を滅ぼし只義道を傳ふるノアの一家八人を救へり 六又ソドムとゴモラの邑を滅さん 七定め之を焚て灰となし後の神を敬はざる者の鑒となし 七たゞ義き心を行ひ主たる者を藐視す

かれらの中に日々その不法の行を見聞して己の義き心を傷たり 九此の如く神を敬ふ者を患難より救ひ不義なる者を審判の日まで守りて之を罰し 十別て汚たる情慾に循ひ肉の慾を行ひ主たる者を藐視する者を罰する事を知給ふなり 此輩は膽太く自放なる者にして尊者を誘ふことを畏ざるなり 十一天

使は彼等に愈し大なる權威と能力を有す主の前に此輩を罰して 尊者を誘ふことを爲す 十二彼等は執れて殺さるゝ爲に生れたる無知の如し 知ざる所の事を誇り其邪曲により滅されて不義の報を受ん 十三彼等は白晝も酒食を樂さす汚なり 瑕なり 爾曹一同に筵席に與るべき其誹謗を樂せり 十四かれら目に淫婦を充し罪を犯して止す心の堅らざる者を惑はし其心貪婪に慣これ詛るべき子輩なり 十五かれら

正道を離れて迷入ソロの子バラムの道に従へり 巴ラムは不義の利を貪りし者なり 十六彼等の不法の爲に責らる語ること能はざる驢馬人の聲をなして預言者の狂を禁たり 十七此輩は水なき井あり 狂風に逐る雲なり 黑暗かれらの爲に窮なく存れり 十八そへ彼等ハ誇たる虚誕を語り肉慾と淫亂を以て夫の迷へる者の中より辛じて脱たる者を誘へば也 十九また彼等ハ之に自由を予ると稱れども自ら淪亡の奴僕たり

蓋したる者ハ勝者の奴僕たれば也 二十彼等もし我儕の主なる救主イエスキリストを識に因て世の汚を脱れ復これに累れて勝るゝ時ハ其後の状態へ前に愈りて更に悪かるべし 二一かれら義の道を識て尙その傳られし所の聖命を棄んより 寧ろ義の道を識ざるを美とすべし 二二犬ハへり來りて其吐たる物を食ひ豕あらひ潔られて復泥の中に臥さ云る 諺ハ眞にして彼等に應へり

第三章 一愛する者よ我今この第二の書を爾曹に筆贈る此兩書を以て爾曹の眞實なる心を勵し 二先に聖預言者の語し言さ爾曹の使徒等ハ傳へし主なる救主の命令を記憶せん 三まづ首に此事を知べし 末日至らば戲論者いで來り己の慾に従ひて行み 四主の約束し給ひし其臨る何處に在や 列祖の寢しより以來すべての物開闢の始と變ること無き云ん 五彼等ハ神の言に由て上古天あり地の水より出かつ水

に由て立六之に由て古の世水に淹れて滅たる事を知を欲せず 七それ神ハ其言を以て今の天と地を著へ之を火にて焚ん爲に神を敬はざる人を審判する淪亡の日まで存せり 八愛する者よ爾曹の一事を知ざる可らず 主に於てハ一日ハ千年の如く 千年ハ一日の如し 九主の約束し給ひし所を成に遅きハ或人の遅し意ふが如くに非ず 一人の亡ぶるを欲み給はず 衆人の悔改に至らんを欲みて我儕を永く忍び給ふ也 十然そ

主の日の來ること盜の夜きたるが如ならん 其日にハ天大なる響ありて 諸星を待たせり 十一然そ我儕ハ其中にある物みな焚盡ん 十二斯の如く諸星の鎔されん 然そ爾曹神の日の來るを待たせり 十二然そ我儕ハ其

約束に因て新しき天と新しき地を望み待り 義その中に在 十四愛する者よ爾曹すてに之を望み待らば汚なく 疵なく 主の前に安然に在ん 十五且われらの主の我儕を永く忍び給ふハ我儕の救なるを知るべし 我儕の愛する兄弟バウロも其賦られし智慧に循ひ曾て此事を爾曹に書贈れり 十六彼等の凡の書にも此事に就て

語たり 彼の書の中にハ 難明なるあり 無學なる者 心の堅らざる者 他の聖書を強解が如く之をも強解て 自ら敗亡に至るなり 十七愛する者よ爾曹預じめ之を知バ慎めよ 惡者の迷謬に誘れて其堅き心を失ふ

こと勿れ十八人ちら益我儕の主なる救主イエスキリストを知んこと益その恩恵を知んことを務むべし願くハ榮光今も後も彼に歸して窮なからんことをアメン

新約全書使徒彼得後書終

新約全書使徒ヨハ子第一書

第一章一それ我儕が聞きた目に見懇切に觀わが手捫りし所のもの即ち元初より在し生命の道を爾曹に傳ふ

この生命すでに顯れたれば我儕これを見て證をなす即ち原父と偕に在し者にて我儕に顯れたる窮なき所の此生命を爾曹に傳ふ三われら見しころ聞し所を爾曹に傳ふハ爾曹を我儕と同心ならしめん爲なり我儕ハ父

および其子イエスキリストと同心たり我儕この書をき贈て爾曹の喜樂を充しめんこと五神ハ光なり少の暗處なし此ハ我儕彼より聞て亦あんぢらに傳る告なり六若われら神と同心なりと言て暗を行かば我儕が

言さころハ誑にして眞理を行ふに非ず七若神の光に在が如く光の中を行かば我儕互に同心さるを得かつ其子イエスキリストの血すべて罪より我儕を潔む入もし罪をなしと言は是みづから欺けるにて眞理われらに

在をし九もし己の罪を認ハさバ神ハ信實ある公義者なるが故に必ず我儕の罪を赦し諸の不義より我儕を潔むべし十もし罪を犯たることなしと言ハ神を誑者とする也その道われらに在なし

第二章一わが小子よ我これらの事を爾曹に書贈るハ爾曹をして罪を犯すこと莫らしめん爲なり若し人罪を犯せば我儕の爲に父の前に保惠師あり即ち義あるイエスキリスト二彼ハ我儕の罪の挽回の祭物なり第三に我

儕の爲のみならず偏く世の爲の挽回の祭物なり三われら若その誠を守らば是に由て彼を識り自ら曉るべし四われ彼を識り言て其誠を守らざる者ハ誑人なり眞理その衷に在をし五凡て其道を守る者

ハ神を愛するの愛誠に其衷に於て完全す是に由て我儕が彼に在ことを自ら曉る六彼に居さいふ者ハ彼の行し如く行むべき也七兄弟よ我なんぢらに新しき誠を書贈るに非ず即ち始より爾曹の有る舊誠を

り此舊誠ハ始より爾曹が聞し所の道なり八然ぞ我ハ爾曹に書贈る所ハまた新しき誠なり此言ハ彼に於ても爾曹に於ても眞理なり蓋いま暗昧ハやうして眞の光耀ばあり九光に居と言て其兄弟を憎む者ハ

今なほ暗に居なり十兄弟を愛する者ハ光に居て己を贖かするもの其衷になし十一兄弟を憎む者ハ暗に

たり暗に行て其往さころを知らず是その目を暗に眩さるれば也十二小子よ我この書を爾曹に書くるハ爾

曹主の名に縁て罪を赦されたるに因十三父老よ我の書を爾曹に贈るハ爾曹元始よりの者を識るに由る
壯者よ我の書を爾曹に書おくるハ爾曹惡者に勝るに由る 爾曹よ我の書を爾曹に筆おくるハ爾曹父
を識るに因十四父老よ我の書を爾曹に贈しハ爾曹始よりの者を識るに因てなり壯者よ我の書を爾曹
に贈しハ爾曹剛健ハ神の道爾曹の心に有て惡者に勝るに因てなり十五この世あるハ此世にある物
を愛する勿れ人もし此世を愛せば父を愛するの愛その衷に在なし十六凡そ世に在もの即ち肉體の慾眼目の慾
また勢より起る驕傲これらハ皆父より出るに非ず世より出るもの也十七この世其慾ハ逝るものにて神
の旨を行ふ者ハ永遠存るなり十八 孺子よ今ハ乃ち季世キリストに敵する者來らん爾曹が聞し所の
如く今すでにキリストに敵する者多し是に由て今乃ち季の世なるを我儕ハ知り十九 我儕を離れて彼等出た
り雖も素より我儕の屬ならざる也もし我儕の屬ならんハ恒に我儕と偕なるべし彼等いで去るハ衆の者の
悉くハ我儕の屬ならざることを顯さんガ爲なり二十 爾曹ハ既に聖主より膏を沃れて一切の事を知二二
われ爾曹も直理を識ざるに因て此書を筆おくるに非ず爾曹直理を識かつ凡の誑ハ直理より出ざることを識
るを以てなり二三 誰ハ是 誑者イエスを言てキリストとせざる者ならずや父子を拒む者ハ即ちキリス
トに敵する者なり二三 凡そ子を拒む者ハ父をも有子を受る者ハ父をも有り二四 なんぢら始より聞る者ハ爾
曹の衷に居しむべし若し始より聞る者なんぢらの衷に居ハ爾曹ハ子と父とに居ん二五 これ主の我儕に約束し
給へる約束すなはち窮なき生命なり二六 我爾曹を感ずる者に就て此等の事を爾曹に書贈れり二七 爾曹ハ主よ
り沃れたる膏その衷に存れるガ故に教を人より受るに及ばず其膏すべての事を爾曹に教ふ且眞實にして虚
假なし爾曹膏の教る如く恒に主に居べし二八 小子よ恒に主に居べし其顯現時に我儕懼ることある其
降臨時に其前に耽ること莫らん爲なり二九 爾曹ハ主の公義を知に由て公義を行ふ者の皆主の生ところあるを
亦たる也

第三章 一 なんぢら視よ我儕稱られて神の子たることを得これ父の我儕に賜ふ何等の愛ぞ世ハ父を識す

これより我儕も識ざる也二愛する者よ我儕いま神の子たり後いかん未だ露れず其現れん時にハ必ず神に
是に由て我儕も識ざる也二愛する者よ我儕いま神の子たり後いかん未だ露れず其現れん時にハ必ず神に
肯んことを知そ我儕その眞状を見れば也三凡そ神に由る此望を懷く者ハ其潔が如く自己を潔
す四罪を犯す者ハ律法を犯す罪ハ即ち律法を犯すこと也五我儕の罪を除かんガ爲に主の現れ給ひしことハ
爾曹の知ところなり彼また自ら罪を犯し六凡そ彼に居る者ハ罪を犯す凡そ罪を犯す者ハ未だ彼を見ず未だ彼を
識ざる也七小子よ人に感ざること勿れ義を行ふ者ハ義人なり即ち主の義なるが如し八罪を犯す者ハ惡覺よ
り出そハ惡覺ハ始より罪を犯せばなり神の子の顯るハ惡覺の工を毀たんガ爲あり九凡そ神に由て生る者
ハ罪を犯さず蓋神の種その衷に在に因かれ亦罪を犯すこと能はず蓋神に由て生るれば也〇十是に由て神の子
と惡覺の子ハ明かに著る凡そ義を行はず其兄弟を愛せざる者ハ皆神より出しに非ず十一 我儕の互に相
愛すハ爾曹の始より聞し所の命令なり十二カインに效ふこと勿れ彼ハかの惡者より出し者にて其弟
を殺せり何故これを殺し己の行し所ハ惡く弟の行し所ハ義かりしに因十三 わが兄弟よ世な
んぢらを憎むことも驚くも勿れ十四 われら兄弟を愛するに因すてに死を出て生に入しことを自らし兄弟
を愛せざる者ハ死の中に居十五 凡そ兄弟を憎む者ハ即ち人を殺す者なり凡そ人を殺す者ハ窮なき生命その
衷に存ことなし此ハ爾曹の知ところ也十六 主ハ我儕の爲に生を捐たまへり是に由て愛さざる事を知たり我儕
また兄弟の爲に生を捐べし十七世の資財をもち兄弟の窮乏を見て反て惠施の心を閉る者ハ何で神を愛す
るの愛その衷に存んや十八 小子よ我儕愛するに言さ舌を以て相愛する事なく行さ實を以てすべし十九
是に由て我儕眞理より出しを知かつ我儕心を主の前に安んずべし二十 我儕が心も我儕を責め神ハ我儕が
心よりも大なるにより凡の事を知給はざるなし二一 愛する者よ我儕が心も我儕が心も我儕が心も我儕が
る所なるべし二三 且われら凡て求る所ハ彼より受そ其誠を守りて其悦び給ふ所を行へバ也
二三 一の誠ハ即ち我儕神の子イエスキリストの名を信じ彼の我儕に命ぜし如く互に相愛すること也二四 神
の誠を守る者ハ神になり神も亦われに居われら其賜ふ所の靈に由て即ち其われらに居給ふことを知り

第四章 一愛する者凡の靈を信する勿れその靈神より出るや否を試むべし多の偽預言者いでる世に入り
 二凡そイエスキリストの肉體となりて臨り給ることを認めし靈ハ神より出これに由て神の靈を知べし三凡
 そイエスキリストを認めざる靈ハ神より出るに非ず即ちキリストに敵する者の靈なり此者の將に來らん
 こそする事ハ爾曹が聞る所なり今既に世に居り四小子ハ爾曹ハ神より出また彼等に勝ることを得たり蓋なんぢら
 の衷に居ものハ世の衷に在る者より大なるに因て也五彼等は世より出し者なれば其いふ所も世より出し者の
 言べき事にして世人は之に聽り六我儕ハ神より出たり神を識ものハ我儕にきく神より出ざる者ハ我儕に聽す
 是に由て眞理の靈と迷謬の靈とを知らり七愛する者ハ我儕互に相愛すべし愛ハ神より出れば也八よそ
 愛ある者ハ神に由て生れ且神を識るなり八愛なき者ハ神を識す神ハ即ち愛なれば也九神ハその生給へる獨子
 を世に遣はし我儕をして彼に由て生を得しむ是に於て神の愛われらに顯れたり十われら神を愛するに非ず神
 われらに愛し我儕の罪の爲に其子を遣はして挽回の祭物とせり是すなはち愛なり十一愛する者ハ此の如く神
 われらに愛し給へば我儕も亦たがひに相愛すべし十二未だ神を見し者なし我儕もし互に相愛せば神われらの
 衷に居て彼を愛する愛を我儕の衷に完全す十三かれ已に其靈をもて我儕に賜ふ是に由て我儕の彼に居かれ
 の我儕に居ることを知十四父靈に其子を遣はして世の救主と爲り我儕すて之を見たり今その證を作あり十五
 凡そイエスは神の子なりと認めし者ハ神かれに居かれ神に居十六我儕の爲に神の有る愛を我儕すてに知て
 信す神ハ即ち愛あり凡そ愛に在る者ハ神に在り神また彼に居十七此の如く我儕の愛全備を得て翰日に懼
 なからしむ蓋主の如く我儕世に在るあり十八愛の中に懼あることなし全き愛ハ懼を除そハ懼ハ苦を有り
 凡そ懼る者ハ愛を全備せざる也十九われら神を愛するハ彼ら我儕を愛するに因り二十もし我ハ神を愛す
 さ言て其兄弟を憎む者ハ是 誑者なり既に見ざるこの兄弟を愛せずして未だ見ざる神を何で愛せん乎
 二一神を愛する者は亦その兄弟をも愛すべし此 誑ハ我儕彼より授られたり
 第五章 一凡そイエスをキリストと信する者ハ神に由て生れたる也二よそ之を生者を愛する者ハ亦その生

る所の者をも愛する也二我儕もし神を愛して其 誑を守らば此に由て我儕神の兒女を愛する也知三神の
 誑を守るは是すなはち神を愛する也その 誑ハ難からず四凡そ神に由て生る者ハ世に勝我儕をして世に
 勝しむる者ハ我儕が信あり五誰か能世に勝んイエスを神の子と信する者ハ非ずや六神の子は水と血をもて
 臨り即ちイエスキリストなり惟水のみならず水に又血を兼七證を爲す者ハ靈あり靈は眞實なれば也八證を作
 ものハ三すなはち靈と水と血との三の者の歸する所ハ一なり九我儕もし人の證を受る時ハ神の證ハ更に大
 なるべし神の證ハ此なり即ち其子の爲に作る證なり十神の子を信する者ハ其衷に此證あり神を信せざる者
 ハ神を誑者とす蓋神のその子の爲に證せる證を信せざれば也十一神ハ窮なき生をもて我儕に賜ふ此生
 ハ乃ちその子に在り其證なり十二神の子をもつ者ハ生を有する者ハ生を有する者ハ生を有する者ハ生を有する者
 の名を信する爾曹に此等の事を書贈るハ爾曹に窮なき生ある事を知しめんが爲なり十四凡て我儕神の旨に
 合へる事を求む彼らからず聽ん是われら彼に向て篤く信する所なり十五凡て我が求る所を彼の聽こざる者
 ハ我が求る所を彼に得ること亦亦もし人その兄弟の死に至らざる罪を犯すを見バ祈りて死に
 至らざる罪を犯す者に生を予ふべし死に至る罪あり我が爲に祈れと言す十七凡ての不義ハ罪なり然ぞ死
 に至らざる罪あり十八凡て神に由て生れたる者ハ我儕ハ神につき舉世ハ惡者に服するを我儕ハ知二十また神の
 守の惡者これに觸ることを爲ざる也十九我儕ハ神につき舉世ハ惡者に服するを我儕ハ知二十また神の
 子すてに來り我儕が眞理者を識の智慧を我儕に賜るを知われら眞理者にあり即ち其子イエスキリストに
 在かれハ乃ち眞神また永生なり二一小子ハ爾曹みづから慎みて偶像に遠かれアメン

新約全書使徒約翰第一書終

新約全書使徒ヨハ子第二書

長老選を蒙れるクリアと其子等に書を贈る我誠ニ爾曹を愛す第我のみならず凡そ眞理を識る者ハ亦
 みな爾曹を愛せりニ爾曹を愛するハ是われらの衷に在て恒に離れざる眞理に縁てなりニ爾曹ハ實に愛に
 居て神すなはち父および父の子イエスキリストより恩寵と慈悲と平康とを受べし○四われ爾の子等の中わが
 受し所の父の命のごとく眞理に遵ひて行む者の有るを見て甚だ喜べり五クリアよ我いま爾に勸む互に相愛す
 べし此ハ新しき誠を書贈るに非ず即ち始より我儕が有る所の者なり六われら彼の誠に遵ひて行むハ是
 すなはち愛なり爾曹が始より聞し如く愛に行むハ是乃ち誠あり七その惑に誘ふ者おほく世に出イエスキ
 リストの肉體を爲て臨り給へること認はさす此惑に誘ふ者ハ乃ちクリストの敵なれば也八あんぢら我
 儕が勤勞し所の事を虚くせず全き賞を得んが爲に自ら慎むべし九凡そクリストの教に居すして人を導く
 者ハ神を有すキリストの教に在る者ハ父および子を有り十人もし此教を有すして爾曹に來らば之を家に納
 ること勿れ彼に安かれと言ふハ十一彼に安かれといふ者ハ其惡行に與する也○十二我なは多端
 あれども紙と墨とを以て爾曹に書おくるを欲す我儕の喜樂の充滿せん爲に爾曹に至り口を對て語らんこと
 を望む十三爾の姉妹すなはち選を蒙れる者の兒女なんぢに安を問りアメン

新約全書使徒ヨハネ第三書終

新約全書使徒ヨハネ第三書
 長老愛するガヨス即ち我が誠に愛する所の者に書を贈るニ愛する者も爾が靈魂の隆んたる如く爾すべ
 の事につきて隆んに又康強ならんことを我れが三兄弟來りて爾が眞理を有ること即ち爾が眞理に行
 むことを證したれば我甚だ喜べり四わが子等の眞理を行むを聞に愈れる大なる喜樂ハ我になし五愛する者
 爾の賓旅ある兄弟にまで凡て行ふに忠信をもて行へり六かれら教會の前に在て爾の愛を證せり爾も
 し神に合ふべく彼等の行路を助け其行ふところ善なり七彼等ハ主の名の爲に出で異邦人より何をも受ざれ
 ば也八是故に我儕かくの如き人を助くべし蓋われらも彼等と偕に眞理に働く者ならん爲なり九われ曩に書
 を教會に贈りしは彼等の中に於て長たらんことを欲むデナテレス我を納ざりき十我もし往て其行る所を
 心に記置ん彼ハ惡言をもて妄に我儕を論じ且これを以て足りさせず自ら兄弟を接す其を接んとする者
 をも妨げて教會より離れたり十一愛する者も惡に效ふ勿れ即ち善に效へ善を行ふ者ハ神より出惡を行ふ
 者ハ未だ神を見ざる也十二デメテリチハ衆人と眞理とに證をせらる我儕も證をす我儕の證の眞實なるを爾
 知り十三我なほ多の事を爾に書贈らん爲ども筆と墨とを以て書むるを欲す十四速かに爾を見て口を對へ
 語らんことを望む願くハ爾安かれ多の友なんぢの安を問り請なんぢ我に代て諸友のくくに安を問

新約全書使徒約翰第三書終
しんやくぜんしよしとよわたいさんしよをばり
新約全書使徒約翰第三書終

新約全書使徒約翰第三書終

イニスクリストの僕ユダ即ちヤコブの兄弟書を召れたる者すはち父ある神に愛せられ且イニスクリ
ストの爲に守らるる衆人に贈る二願くハ爾曹に慈悲と平康と仁愛の増んことを三愛する者よ我心を熱
して共に興る所の救の事を爾曹に書あくらんと思ひたりしが今なんぢらに書を贈りて聖徒が一人たび傳られ
し信仰の道の爲に力を盡して戦はん事を爾曹に勸ざるを得ず四そ神を敬はず我儕の神の恩を易て色慾を放
縦にするの縁をなし惟一の主なる神と我儕の主イニスクリストを棄るもの數人潜に教會に入れたればな
り彼等が此審判を受るとに定められたる事ハ昔より預じめ録されたり五なんぢら素より知る事なれど我は爾
曹に憶起させんとする事ハ主その民をエジプトの地より救出ししのち信ぜざる者を滅ぼし給ひし事と六
己が本位を守らずして其住る所を離れたる天使を限なく撃て大なる日の審判まで幽暗の中に守り置た
まひし事とセツドムゴモラ及び其比隣の邑かれらと同一く姦淫をなし且男色を行ふにより限なく火の罰を
受て鑑戒に立られし事となりハこの夢みる者も亦肉體を汚し主たる者を藐忽し尊者を謗れり九それ天
使の長ミカエル惡魔モーセの屍を争ひ論ぜしとき彼なほ之を謗りて訴へざりき惟主なんぢを責べしと
曰り十然るに彼等ハ知ざる所の事を謗れり其本性ある所の無知獸の知さざると同じ彼等ハ之を以て
己を亡せり十一禍なる哉彼等ハカインの途にゆき利の爲にバラムの迷謬に馳またコラの逆ひし如して亡
びたり十二彼等ハ爾曹の愛の筵席の磐なり彈る所なく同に其筵席に與りて自己を養へり彼等ハ風に逐
るる雨なき雲枯て再われ根を拔るる果のなき秋の樹十三その穢を湧出た海の猛浪道をはれたる星あり之
が爲に暗黒を限なく留置れたり十四アダムより七代に當れるエノク此輩の事を預言して曰けるハ視よ主
其聖萬軍さ儲に來りて十五衆人を鞠き凡て神を敬はざる者の神を敬はずして行ひし惡行と神を敬
ハざる罪人の主に逆ひて語れる惡言を責給ふべしと十六此輩ハ怨言も足とを知らざる者ものれ
の怒に従ひて行き其口の誇ることを語り利の爲に人に誦ふ者なり十七愛する者よ爾曹が主イニスクリスト

の使徒等の曩に語りし言を憶起すべし十八即ち爾曹に語ていふ末期に戲謔者あり己が横逆なる慾に従ひて行人さ十九彼等へ自ら區別をなす者また肉に屬る者にして靈のなき者なり二十愛する者爾曹その徳を至潔き信仰の上に建て聖靈に感じて祈りニ一自己を守りて神の愛の中に居われらの主イエスキリストの永生を賜ふ其矜恤を待べし二三彼等のうち或者をば論じて口を噤しめ二三或者をば火より取出して救ひ或者をば畏懼を以て憐むべし其惡の肉の慾に染たる衣までも惡むことをせよ○二四我儕の救主なる獨一の神すなはち爾曹を贖ひて保り爾曹をして汚なく歡びて其榮光の前に立こさせしむる者ハ世の始の前より今また後世々永遠われらの主イエスキリストに由て榮光と大能と權を有ら給ふなりアメン

新約全書ヨハ子黙示録

第一章 一此イエスキリストの黙示すなはち神彼をして迅速に起るべき事を彼の僕等に示さしめんさて彼に賜ひし所なりイエスキリスト其使を以て僕ヨハ子に之を贈りし給へり二ヨハ子神の道にイエスキリストの證を其凡て見し所のものを證す三この預言の書を讀者之を聞て其中に記しある所を守る人々ハ福なり蓋時近ければ也○四ヨハ子書をアシアにある七の教會に贈る願くは今在し昔し後在す者もよび其寶座の前の七の靈玉及び忠信なる證者死の中より首に生れし者天下の諸王の君たるイエスキリストより爾曹恩寵と平安を受く願くは我儕を愛し其血を以て我儕の罪を洗潔め六我儕をして王となし祭司と爲てその父の神に屬しむる者に榮光と權力と尊厳と有んことをアメン○七視よ彼は雲に乗りて來る衆の目かれを見ん彼を刺たる者も亦これを見べし且地の諸族これが爲に哀哭んアメン八主たる神いひ給へり我ハアルバ也オメガなり始めなり終なり今あり昔あり後ある全能の者なり○九我ヨハ子即ち爾曹の兄弟あんちらと患難を共にしイエスキリストの國および其忍耐を共にする者靈に神の道にイエスキリストの證の爲にパトモスといふ島に居て十主の日に我靈に感じて歡の如き大なる聲の我後に在を聞り十一云く爾の見さるるを書に録して之をアシアに在エバソスムルナヘルガモテラサルデスヒラデルヒアオデキヤの七の教會に贈るべし十二われ身を轉して我に語る聲を觀んとし既に身を轉せば金の七の燈臺十三又其七の燈臺の間に人の子の如き者あるを見たり其身にハ足まで垂る衣をき胸にハ金の帯を束れ十四首と髪とハ白く羊の毛の如く雪の如く目ハ火燄の如し十五足ハ燄に燒る眞鍮の如く聲ハ大水の響の如し十六右の手にハ七の星をもち兩刃の利劍その口よりいで面ハ甚しく輝く日の如し十七我これを見しとき死者の如く其足下に仆れたり彼右の手を我に接て曰けるハ懼る勿れ我ハ首先あり末後あり十八我は生者なり前に死しこゝにあり視よ我ハ世々窮なく生んアメン我ハ陰府に死すの輪を持ち十九なんぢ見し所および今ある所のこゝに後ある所の事を録すべし二十其ハ爾が見し所の我が右の手の七の星また七の金の燈臺の奧義なり七の

星ハ七の教會の使者七の燈臺ハ七の教會なり

第二章 一 爾エマリの教會の使者に書おくるべし右の手に七の星を執りて七の金の燈臺の間を行む者か
くの如く言さ三曰われ爾の行爲を苦しむ忍耐さ爾が惡人を容る能ざるも爾が靈に夫の自ら使徒なりと稱て
實ハ使徒に非ざる者を試みて其妄言を見あらはし事三爾が忍耐する事我名のために患難を忍び
て倦ざりし事を知ら然も我あんちに責べき事あり爾初時の愛を離れたり五なんち何處より墮しかを憶ひ
悔改めて初の工を行へ然すして爾もし悔改めずば我なんちに到り爾の燈臺を其處より取除かん六然
ども爾に一の取べき事ありニコライ宗の人の行爲を惡むとなり我も之を惡めり七耳ある者ハ靈の諸教
會にいふ所を聽べし勝をうる者には我神の樂園にある生命の樹の實を食ふ事を許さん八なんち又ス
ムラの教會の使者に書おくるべし首先末後のもの死てまた生たる者かくの如く言さ九曰われ爾の行爲を
難さ貧乏をさしる貧乏さハ雖も爾ハ富り我また夫の自らユダヤ人なりと稱て實は非ざるサタンの會の者の襲
瀆の言を知り十なんち將に受んさする苦を懼るる勿れ惡魔まさし爾曹の中の者を獄に入て爾曹を試みん
す爾曹十日のあひだ患難を受べし爾死に至るまで忠信なれば我生命の冕を爾に賜へん十一耳ある者
ハ靈の諸教會にいふ所を聽べし勝を得ものハ第二の死の禍害を受す十二爾ハモの教會の使者に
書おくるべし兩刃の利劍をもつ者かくの如く言さ十三曰われ知なんちが住處ハ即ちサタンの座位のある
所あり爾ハ固く我名を保つ管て我の忠信の證人アンテパス爾曹の中サタンの住まるところにて殺されし時に
も爾わが道を棄ざりき十四然も我なんちに數件の責べき事あり爾曹の中パラムの教を保つ者あり先にパラ
ムバラクに教て 磔物をイスラエルの民の前に置しむ即ちバラクをして彼等に偶像に獻し物を食はせ茲
淫を行はしめたり十五また爾曹の中にニコライ宗の教を保つ者あり此教ハ我が惡む所なり十六なんち悔
改めよ然されば我迅速に爾に到り我が口の劍をもて彼等と戦はん十七耳ある者ハ靈の諸教會にいふ所を
聽べし勝をうる者には我職しあるマナを予へん亦白石の上に新しき名を記して之を予へん之を受る者の外

此名を知ものよし十八 爾テアテラの教會の使者に書贈るべし神の子その目ハ火燭の如く其足ハ眞
餘の如なる者かくの如く言さ十九曰われ爾の行爲を愛さ信仰さ服役さ忍耐さを知また爾が後に爲し工は始
の工よりも多し二十然も我あんちに責べき事あり爾ハかの自ら預言者なりと稱て我が僕を教こ
れを惡し茲淫を行はせ偶像に獻し物を食しむる婦 イエザベルを容おけり二一われ曾て此婦に悔改む
べき機を予たれど其茲淫を悔改ることを爲ざりき二三 我かれを牀に投入ん又かれを淫する者も若その
行を悔改めずば我これを大なる苦難の中に投入ん二三また死をもて彼の婦の兒女を殺さん之に因て諸教
會ハ我が人の心腸を察り爾曹各々の行に備ひて報を爲さることを知ん二四 我この餘のテアテラの人いま
だ此教を受す所謂サタンの奧義を未だ識ざる爾曹に言われ他の任を爾曹に負せじ二五 只なんちら有さる
の者を我いたる時まで固く保つべし二六 勝を得て終に至るまで我が命ぜし事を守る者には我諸邦の民を治
むる權威を賜へん二七 彼ハ鐵の杖をもて諸邦の民を牧り彼等を陶瓦の器の如く碎かん我わが父より受たる
權威の如し二八 我また彼に曙の明星を賜へん二九 耳ある者ハ靈の諸教會にいふ 所を聽べし
第三章 一 爾サルテスの教會の使者に書贈るべし神の七の星を執りて七の星を持もの此の如く言さ曰わ
れ爾の行爲をなする又なんちに生る名ありて其實ハ死るとを知らんなんち目を醒し幾ど死んさする殘情を堅
せよ我あんちの行爲の我神の前に全きを見ざる也三是故に爾が受たるさころ聞たる所を憶起しこれを守りて
悔改めよ若し目を醒し居ずば我盜賊の如く爾に到らん爾わが何の時なんちに到るかを知る也四然も
サルテスになほ數人いまだ其衣を汚さざる者あり彼等ハ白衣をきて我と共に行まん彼等ハ然するに足
もの也五勝を得ものハ白衣を着られん我その名を生命の書より塗抹さす又わが父さ其使等の前に彼が
名を言陳ん六耳ある者ハ靈の諸教會にいふ所を聽べし〇七 爾ヒラデルヒアの教會の使者に書贈るべ
し聖もの誠なる者ダビデの輪をもつ者かれ關バ誰も關ること能はず彼關れハ誰も關ること能はず此者かくの如
く言さ八曰われ爾の行爲をなする視よ我が門を爾の前に開けり之を關ることを得る者なし蓋なんち少く力あ

りて我言を守り我名を棄さるべ也九夫の自らエダヤ人ぞ稱て實は非ず唯謊言をいふサマンの會の或者を
 して我これを爾の所に來らしめ爾の足の前に伏しめ我なんぢを愛せしむを知しめん十爾わが忍耐の言を守
 しにより我も亦なんぢを守りて地に住人を試みんが爲に全世界に臨んごする試練の時之を免れしむべし
 十一われ迅速に來らん爾が有さる所の者を堅く保ちて爾の冕を人に奪るること勿れ十二勝をうる者をば我
 神の殿の内の柱と爲さん此より再び出ることをし我また我神の名と吾神の京城すなはち天より我神の所より
 降る新しきエルサレムの名および我が新しき名を之に書さん十三耳ある者の靈の諸教會に言さるるを聽べ
 し十四爾ヲオアキヤの教會の使者に書贈るべしアメンたる者忠信なる眞實の證者神の造化の始な
 る者わくの如く言さ十五曰われ爾が冷かにも有す熱も有さることを爾の行爲に由て知り我をんぢが冷かな
 るか或は熱からん事を願ふ十六爾すでに温然して冷かにも有す熱くも有す是故に我なんぢを我が口より吐出
 さんさす十七なんぢ自ら我の富かつ豊になり乏き所をさし稱て實の憐むべき者また貧く貧ひ裸
 體なるを知らざれば十八われ爾に勸なんぢ富をなさんために我より火に燬たる金を買また己が裸體の恥の露
 れざらん爲に白衣を買て纏へ又見ごを得ん爲に目薬を買て目にぬれ十九凡て我が愛する者我これを
 責め之を懲す是故に爾勵て悔改めよ二十視よ我戸の外に立て叩もし我聲を聞て戸を開く者あらば我そ
 の人の所に就ん而して我のその人と偕に其人の我を偕に食せん二一勝をうる者に我をさきに勝を得て我父と
 偕に其寶座に坐するが如く我を偕に我が寶座に坐することを許さん二二耳ある者の靈の諸教會に言さる
 を聽べし

第四章 一此後われ見しに天に門開けありたり我が初に聞る所の我に語れる筈の如き聲また我に語て曰こ
 こに上れ我この此ち起るべき事を爾に示さん二われ直に靈に感じ天に一の寶座設ありて其寶座の上に坐
 する者あるを見たり三その座する者の貌ハ金剛石、赤瑪瑙の如く且その寶座の四圍に緑の玉の如き紅あ
 り四その寶座の四圍に又二十四の寶座あり二十四人の長老、白衣をき首に金の冕を戴きて其寶座に坐

するを見たり五その中央の寶座の中より閃電迅雷および許多の聲いつ又その寶座の前に燃ゆる七の燈火あ
 り是神の七の靈なり六寶座の前に水晶に似たる玻璃の海の如きものあり寶座の正面その四圍に四の活
 物あり前後こそくく目なり七第一の活物ハ獅子の如く第二の活物ハ牛の如く第三の活物ハ面の貌人の
 如く第四の活物ハ飛鷹の如し八この四の活物のうち六の翼あり其内外こそくく目なり此もの夜る畫る
 息すしていふ聖かな聖かな聖かな昔し今在し後いす主たる全能の神と九この活物寶座に坐する所の世
 世窮なく生る者に榮を歸し之を尊び之に感謝せし時二十四人の長老寶座に坐する者の前に伏しこの世々窮
 なく生る者を拜し己の冕を其寶座の前に投出し曰けるハ十一主よ爾は榮と尊貴と權威を受べき者なり爾
 ハ萬物を造り萬物の意旨に由て有ら且造られたり

第五章 一我また寶座に坐する者七の印にて封印せる内外に文字ある卷を其右の手に持てる見たり二
 我また一人の強き天の使大なる聲を發して誰か此卷を開き封印を解に堪る乎と宣傳る見たり三
 然るに天にも地にも地の下にも此卷を開き又これを見ごを得る者なし四一人として此卷を開き又
 これを見に堪る者なきが故に我甚だしく哭り五彼の長老の一人われに曰けるハ哭なかれエダの支派より
 出たる獅子ダビデの根すでに勝を得たれば此卷を開き又この七の封印を解ごを得たり六われ寶座およ
 び四の活物のあひだ長老等の間に蓋立なるを見たり七の封印を解ごを得たり七の封印を解ごを得たり
 角さ七の目あり此目ハ全世界に遣はす神の七の靈なり七の蓋すよみて寶座に坐する者の右の手より卷
 を取り入卷を取るとき四の活物および二十四人の長老おののく琴を執また香を盛たる金の香爐を執て
 蓋の前に俯伏したり此香ハ聖徒等の祈禱なり九この長老たち新しき歌を唱ひひけるハ爾ハ此卷を取
 その封印を解に堪る者なり蓋なんぢ曾て殺され其血をもて諸族、諸音、諸民、諸國の中より我債を贖ひて神
 に歸せしめ十且我債の神の爲に我債を王さなし祭司と作給へバ也われら地に王たるべし十一我また見しに寶
 座と活物および長老等の四圍に衆の天の使の聲あるを聞り其數千々萬々十二かれら大聲に曰けるハ蓋

に殺れたりし。蓋は權威、富、智慧、能力、尊敬、榮光、讚美を受べき者あり。十三 我また天および地および地の下および海の上にある所の凡て造れたるもの又其中に在もの皆いへるを聞き曰く願くは讚美、尊敬、榮光、權力、寶座に坐する者。蓋に歸して世々窮なからんことを。十四 是に於て四の活物アメンと曰り二十四人の長老伏て拜せり。

第六章 一 蓋その一の封印を開しとき我觀しに活物の一つ雷の如き聲にて來れと曰を聞き二われ觀しに一匹の白馬を見たり之に乗るもの弓を携ふ且冕を與られたり彼常に勝り又勝を得んさて出行り。三 また第二の封印を開し時われ第二の活物の來れと曰を聞き四また一匹の赤馬いで來れり之に乗るもの地の平和を奪ひ且人々をして彼此に相殺しむる權を予られたり彼また巨なる刀を授けらる。五 また第三の封印を開しとき第三の活物の來れと曰を聞き我觀しに一匹の黒馬を見たり之に乗るもの手に權衡を持ち六我の四の活物の中に聲あるを聞き曰く銀十五錢に小麥五合銀十五錢に大麥一升五合なり油と葡萄酒を傷ふ可らず。七 また第四の封印を開しとき第四の活物の來れと曰を聞き八われ觀しに一匹の灰色たる馬を見たり之に乗る者の名死といふ陰府その後隨へり彼等刀劍、饑饉、死亡および地の猛獸をもて世の人の四分の一を殺すの權を予られたり。九 また第五の封印を開しとき祭壇の下に曾て神の道のため及その立し證の爲に殺されたる者等の靈魂あるを見たり。十 われら大聲に呼り曰ける。聖誠の主よ何時まで地にすむ者等を審判せず且これに我儕の血の報をなし給ざる乎。十一 爰に彼等各人に白衣を賜へて之に曰給ひける。彼等の如く殺されんとする其共に勞ける兄弟等の數の盈るまで安んじて暫く待べし。十二 また第六の封印を開し時われ觀しに大なる地震あり日ハ毛布の如く黒まり月ハ血の如くなれり。十三 天の星ハ無花果の樹の大風に揺て未だ熟せざる其果の落るが如く地に墮十四 天ハ巻物を捲が如く去ゆき諸山諸島みな移てその處を離れたり十五 地の諸王また貴人、富者、將軍、勇士すべての奴隷すべての自主悉く洞に匿れ山の巖の中に匿れ十六 山と巖とに曰ける。願くは我儕の上に墜我儕を掩ふて寶座に坐する者の面と蓋の怒を避しめよ。

十七 この蓋の怒の大なる日すでに至れるなり誰か之に抵ることを得んや

第七章 一 此後われ四人の天使地の四隅に立て地の四方の風を援ごめ地の上海の上にも樹の上にも風を吹せざるを見たり。二 又この他に一人の天使活神の印を持って東より登り來るを見たり。此使者の地を海を傷ふを許されたる四人の使者に向て大聲に呼り。三 我儕の神の僕の額に我儕が印するまで地をも海をも樹をも傷ふ可らず。四 曰り。我印せられたる者の數を聞きにイスラエルの諸の支派のうち印せられたる者合せて十四萬四千あり。五 ユダの支派にて一萬二千、レベンの支派にて一萬二千、ガドの支派にて一萬二千、アセルの支派にて一萬二千、ナフタリの支派にて一萬二千、マナセの支派にて一萬二千、シメオンの支派にて一萬二千、レウビの支派にて一萬二千、イサカルの支派にて一萬二千、アゼバルンの支派にて一萬二千、ヨセフの支派にて一萬二千、ヘニヤミンの支派にて一萬二千、人白衣をき手に樓欄の葉をもち寶位と蓋の前に來りて立り。十 長老等四のへ盡すと能ざるほどの許多の人白衣をき手に樓欄の葉をもち寶位と蓋の前に來りて立り。十一 長老等四のに呼り曰ける。救は寶座に坐せる我儕の神と蓋より出るなり。十二 曰ける。ハアメン願くは讚美、榮光、智慧、感謝、尊敬、權威、能力、世々窮なく我儕の神に歸せよ。アメン。十三 長老の一人われに曰ける。此白衣を着たる者ハ誰か。日何處より來りし乎。十四 われ答ける。君よ爾これを知べし。彼われに曰ける。ハ彼等ハ大なる艱難を経て來り曾て蓋の血にて其衣を滌これ白なせる者なり。十五 是故に彼等ハ神の寶座の前に在かつ神の殿にて夜晝神に事ふ寶座に坐する者ハ彼等の中に居給ふべし。十六 彼等ハ重て飢す重て渴すまた日も熱氣も彼等を害はざる也。十七 其寶座の前にある蓋かれらを養ひ彼等を活る水の源に導き又神かれらの涙を其目より拭ひ給ふ可れ也。

第八章 一 また第七の封印を開しとき天靜謐なりしと凡そ半時二われ神の前に立る七人の天使をみる。彼等七の籤を手られたり。三 また一人の天の使金の香鑪を持來て祭壇の側に立かれ多の香を手

られたり此の寶座の前にある金の祭壇の上に之を獻て諸の聖徒の祈禱に添しめ人為なり四香の烟聖徒の祈禱に添て天の使の手より神の前に昇れり五の天使香爐を執これに祭壇の火を盛て地に傾けられ許多の聲迅雷閃電もよび地震起れり〇六七の箠を執る七人の天使箠をふく備を爲り七第一の天の使箠を吹ければ血の雜たる雹火地に雨降地の三分の一焚亡また樹の三分の一焚亡凡ての青草も焚亡たり〇八第二の天使箠を吹ければ火に焚る大なる山の如きもの海に投入られ海の三分の一血に變たり九海の中にある造られたる活物三分の一死船三分の一破壊たり〇九第三の天使箠を吹ければ一の大なる星明燈の如くに燃て天より隕即ち河の三分の一および水の源に隕たり十一の星の名ハ菌陳さいふ水の三分の一ハ菌陳の如く苦く變り如此水の苦く變るに因て多の人死り十二第四の天の使箠を吹ければ日の三分の一の三分の一の星の三分の一みな撃れて其三分の一すべて暗なり晝三分の一光なく夜も亦光なし十三われ見しに一の鷲穹蒼の中央を飛大なる聲にて呼をきく曰く後また三人の天使箠を吹んさ爲により地に住者ハ禍なるかな禍なるかな禍なるかな禍なるかな禍なるかな

第九章 第五の天使箠を吹ける時我天より地に隕たる一の星を見たり此星底を坑の輪を與られたり二彼底なき坑を啓ければ大なる煙の如き煙坑より上り日さ奪著さハ此坑の煙の爲に暗なれり三多の蝗烟の中より地に出この蝗地の蠍の權の如き權を與らる四又地の草もろくの青綠もよび諸の樹を傷ふこと勿た額に神の印をき人々を傷ふべし命ぜられたり五且これに人を殺ことを許さず惟五ヶ月の間われら苦しむる事を許れたり其痛苦ハ人蠍に刺れたる時の痛苦の如し六この時に人々死を求めんさ爲も能はず死んことを願も死ハ遁去べし七此蝗の狀ハ戦のために備たる馬の如し頭に金の冕の如き胸當り其翼の音ハ數多の馬の戦車を引て戰場に馳るが如し且これに蠍の尾の如き尾さ蓋さあり此蝗五ヶ月のあひだ人を傷ふ權を有り十一の蝗に王あり底をき坑の使者なりヘブルの音にて其名をアパドン云ギリシヤの音にてアポリオン云十二の禍すぎ去てをば二の禍至らんさす〇十三第六の天の使箠を吹し時われ神の前なる金の祭壇の四角より出る聲ありて十四この箠を持第六の天の使に語をきく曰わの繁れて大河ユフラテの邊にある四人の使者を釋せ十五乃ち四人の使者釋れたり年月日時に至りて人の三分の一を殺さん爲に之を備しもの也十六騎兵の數に萬々あり我れ其の數を聞けり我異象に此馬さ之に乗る者を見しが其形狀かくの如し彼等ハ紫色、青色、紅色の胸當り看馬の首ハ獅子の首の如く其口より火の煙さ硫磺さ三の物より出る火さ煙さ硫磺さ三のものより人の三分の一殺れたり十九この馬の力量ハ口と尾にあり其尾ハ蛇の如にきて首あり之を以て人を傷ふ也二十この物の一殺れたり十九この馬の力量ハ口と尾にあり其尾ハ蛇の如にきて首あり之を以て人を傷ふ也二十この福にて殺れざる餘の人々ハ尙その手なす所を悔改めず惡鬼を拜し見こと聞こと行ことを得ざる金、銀、銅、石、木の偶像を拜し二又その兇殺、魔術、姦淫、盜竊を悔改めず

第十章 一我また一人の強き天使の雲を衣て天より降るを見たり虹の首にあり其面ハ日の如く其足ハ火の柱の如し二其手にハ展たる小き巻をさり其右の足を海の上にふみ左の足を地に履三獅子の吼る如く大聲に呼れり呼れるとき七の雷ありて聲を出せり四七の雷聲を發しし時われ之を書記さんせしに天より出る聲ありて此七の雷の言ることハ爾これを封じて書記す可らず曰るを聞けり五我が見る所の海さ地に跨り立る天の使右の手を舉て天に向ひ六世々窮なく生る者即ち天ふよび其中のもの地もよび其中のもの海もよび其中の物を造たる者を指て誓ひ曰けるハ此の時を延す可らず七第七の天使の聲を出すとき即ち箠を吹き至りて神の僕なる預言者等に示し給ひし如く其與義成就すべし八我が聞し所の天より出し聲また我に曰けるハ行て夫海さ地に跨り立る天使の手に持ことこの展たる小き巻を取れ我その天の使の所に往て之に曰けるハ請小き巻を我に予よ彼いひけるハ此巻を取て食盡て爾の腹苦く爲べし其口に入るときハ蜜の如く甜らんすわれ天使の手より小き巻を取て之を食し口に在し時ハ其甜こと蜜の如なりしが食盡しし時わが腹苦く爲たり十一われ我に曰けるハ爾再び諸民、諸國、

第十章 一我また一人の強き天使の雲を衣て天より降るを見たり虹の首にあり其面ハ日の如く其足ハ火の柱の如し二其手にハ展たる小き巻をさり其右の足を海の上にふみ左の足を地に履三獅子の吼る如く大聲に呼れり呼れるとき七の雷ありて聲を出せり四七の雷聲を發しし時われ之を書記さんせしに天より出る聲ありて此七の雷の言ることハ爾これを封じて書記す可らず曰るを聞けり五我が見る所の海さ地に跨り立る天の使右の手を舉て天に向ひ六世々窮なく生る者即ち天ふよび其中のもの地もよび其中のもの海もよび其中の物を造たる者を指て誓ひ曰けるハ此の時を延す可らず七第七の天使の聲を出すとき即ち箠を吹き至りて神の僕なる預言者等に示し給ひし如く其與義成就すべし八我が聞し所の天より出し聲また我に曰けるハ行て夫海さ地に跨り立る天使の手に持ことこの展たる小き巻を取れ我その天の使の所に往て之に曰けるハ請小き巻を我に予よ彼いひけるハ此巻を取て食盡て爾の腹苦く爲べし其口に入るときハ蜜の如く甜らんすわれ天使の手より小き巻を取て之を食し口に在し時ハ其甜こと蜜の如なりしが食盡しし時わが腹苦く爲たり十一われ我に曰けるハ爾再び諸民、諸國、

諸音、諸王の事を預言すべし
 第十一章 一 われ杖の如き筆を予られたり天使われに曰ける起て神の殿さ香壇並に其處にて拜する者を度れ二殿の外庭に遺して度る可らず蓋これを異邦人に予へ給ひたれば也四十二ヶ月のあひだ聖城を蹂躙さん三我わが二人の證者に能を予ん彼等麻の衣を着て千二百六十日の間預言すべし四彼等ハ地を宰する主の前に立る二の橄欖の樹二の燈臺なり五もし彼等を害ばんとする者あれば火その口より出て其敵を滅すなり若し彼等を害ばんとする者あれば此の如く殺るべし六われら預言する間天を閉て雨を降ざらしむるの權を有り亦水を血に變らせ且その心の任に幾回にても各様の災殃を以て地を撃權を有り七彼等其證をなし畢んそき底なき坑より上る獸ありて之を戰をなし勝て之を殺さん入その屍ハ大なる邑の衢にあり此邑を譬てソドムと名け亦エツプトと名け即ち主の十字架に懸られ給ひし所なり九諸民、諸族、諸音、諸國の者三日半の間、われらの屍を見かつ其屍を墓に葬るを許さず十地にすむ者等われらの死しに因て喜び樂み互に禮物を贈答せん蓋この二人の預言者地に住ものを苦めたれば也十一三日半ののち生の靈神より出て彼等の中に入られ起て其足を立しかば之を見もの大に懼たり十二われ天より大なる聲ありて此に昇れ彼等に言を聞け彼等雲に乗て天に昇れ其敵これを見たり十三この時に大なる地震ありて邑の十分の一傾れ此地震の爲に死し者七千人遣れる者等ハ大に懼れ榮を天の神に歸せり十四第二の禍すき去り第三の禍速に來らんす○十五第七の天使、號を吹しそき天に大なる聲ありて曰此世の諸の國ハ我儕の主ふよび主のキリストの屬さ爲りキリスト世々窮なく之を治め給はん十六神の前に在て位に坐し居たる二十四人の長老俯伏して神を拜し十七曰ける今在し昔し在全能の主たる神ハ我儕感謝す爾すてに大なる權を執て政事を施し給ふに因十八諸の國の民怒を懷けり爾の怒も亦至れり且死し者を審判して爾の僕ある預言者及び聖徒らびに大さ小さの別なく其名を懼る者に賞を予へ地を亡す者たじし給ふ時既に至れり十九時に神の殿天に開け殿の中に神の約束の櫃みゆ又閃電と聲と迅雷とよ

地震大なる電さ有き

第十二章 一 爰に大なる異象天に現はる一人の婦あり日を着月を足の下にふみ首に十二の星の冕を戴けり二彼すてに孕み居しが子を産んとして甚く苦み泣叫べり三また一の異象天に現はる一條の大なる赤龍あり之に七の首と十の角あり其七の首に七の冕を戴けり四その尾にて天の星三分の一を食これ地に墮せり此龍子を産んとする婦の前にたち産を待て其子を食んす五婦男子を生り其子の杖をもて萬國の民を主理らんす六彼神さ其寶座の下に擧られたり六婦のがれて野に往り神そにて彼を千二百六十日のあひだ食しめん爲に備給へる一の所あり七斯て天に戰起れりミカエルその使者を率て龍と戰ふ龍も亦その使者を率て之と戰ひしが八勝こそ能す且再び天に居こそを得ず九是に於て此大なる龍すなはち惡魔と呼れサタンと呼る者全世界の人を惑す老蛇地に逐下さる其使者も亦さもに逐下されたり十天に大なる聲あるを聞け曰く我儕の神の救と能力と其國と神のキリストの權威今すてに至れり蓋われらの神の前に夜晝われらの兄弟を訴ふる者既に逐下されたり也十一我儕の兄弟ハ羔の血ふよび己が證せし所に道に因て之に勝り彼等ハ死に至るまで其生命を惜ざりき十二是故に天に天に居る者ハ喜べ地と海ハ禍なる哉その惡魔おのが時の幾時も無をしり大なる怒を懷て爾曹の所に下れ也十三龍おのが既に地に逐下されしを見て彼の男子を生る婦を著せり十四この婦大なる鷲の二の翼を予られ野に飛て己が所に至り其處にて蛇を避一年と二年と半年のあひだ養はれたり十五蛇その口より水を河の如く婦の後に吐て之を漂さんさせり十六地婦を助け口を啓て龍の口より吐たる水を吞盡せり十七龍婦を怒りてその餘の兒女すなはち神の誠を守りイエスの證を有つものさ戰はんさて往り

第十三章 一 われ海の砂の上に立て一匹の獸の海より出るを見たり之に七の首と十の角あり其角の上には十の冕を戴き其首に僭妄の名を書せり二我が見し所の獸その形ハ豹の如く其足ハ熊の足のごとく其口の獅子の口の如し龍おのれの能力と座位と大なる權威を之に予たり三我この獸の一の首傷を受けて幾と死ん

さする状なるを見たり其死んさする状なりし傷癒ければ全世の人これを奇として従へり龍その權威を獸に手に因て人々龍を拜し又その獸を拜し曰ける誰か此獸の如き者あらんや誰か之と交戦をなし得るの有ん乎五の獸を大なる言を講す言をいふ口を予られ又四十二ヶ月のあひだ働をなすべき權を予らる六の口を啓て神を講し其名を講す其幕屋を天にすむ者等を講せり七の聖徒等と戦ひ之に勝つことを許され又諸族、諸民、諸音、諸國を宰する權威を予られたり八地に住る凡人即ち世の始より殺され給ひし獸の生命の冊に其名を録されざる者等ハ此獸を拜せん九耳ある者ハ之を聽へし十凡そ人を虜にする者ハ己また虜にせられ刀にて人を殺す者ハ己また刀にて殺さるべし聖徒の忍耐と信仰と茲に在○十一我また一匹の獸の地より出るを見たり之の角ありて獸の角の如し且その言ふと龍の如し十二の獸先の獸の前にて先の獸の凡の權威をとり地と其上に住る者をして先に死んさする状なりし傷の愈たる獸を拜せしめたり十三また大なる奇徴をなし人々の前にて火を天より地に降し十四且その權を得て獸の前に行ふ所の奇徴を以て地にすむ者を欺き彼等に語りて彼の刀傷を受けてなほ活る獸の像を作らしむ十五彼の獸の像に生命を手へ之をして言ふことを得しめ又その像を拜せざる者を悉く之に殺しむるの權を手られたり十六衆人をして大小、貧富、自主、奴隸の別なく或ハ右の手或ハ左の手に印誌を受しむ十七印誌すなハ獸の名をあらざる者あるハ其名の數あらざる者ハ月て貿易する事を得ざらしめたり十八此獸の數目の義を知もの智慧あり才智ある者ハ此獸の數を算し獸の數ハ六百六十六なり

第十四章一われ觀しに羔シオンの山に立り十四萬四千の人見し儻にあり皆その額に羔の名をよび羔の父の名を書せり二われ天より聲あるを聞り衆の水の聲の如く大なる雷の聲の如し我が聞し此聲ハ琴を弾者の琴をひく琴の音あり三われ新しき歌を寶座の前におよび四の生物と長老等の前に歌ふ此歌ハ贖はるることを得て地より來れる十四萬四千の外の學得ことなし四彼等の婦女と交りて其身を玷ざる潔者なり且且羔の往さる何處にても之に従ふ彼等ハ人の中より贖出されたる者にて神と羔に獻し初め

果あり五その口詭言を彼等ハ疵なき者也○六我また一人の天使の冠の中央を飛を見たり彼地にすむ者即ち諸國、諸族、諸音、諸民に宣傳入爲に永遠ある所の福音を携へ七大なる聲にて曰けるハ神を畏れ榮を之に歸せ蓋神の審判し給ふこと既に至れば天地海及び水の源を造り給ひし者を拜せよ八また一人の天使そのあさに従ひ往て曰けるハ大なるペロロン傾たり傾たり彼の意淫に因て干る怒の酒を萬國の民にも飲しめたり九第三の天使われらの後に従ひ往て大聲に曰けるハ若し獸を拜し其印誌を額あるハ手に受る者あらば必ず神の怒の酒を飲ん即ち神の怒の杯に物を雜すして飲る者もまた聖天使たち及び羔の前にて火と硫磺を以て苦めらるべし十一その苦めらるる烟上に騰て盡る時なし獸を拜する者また其名の印誌を受る者ハ夜晝安からざるあり十二神の誠言イエスを信する信仰を保つ聖徒の忍耐と在十三われ天より聲ありて我に言ふを聞り曰まんち此言を書せ今より後主に在て死る死人ハ福あり靈も亦いふ然かれらハ其勞苦を止て息ん其功これに隨はん○十四われ觀しに白雲あり其雲の上に人の子のこさきもの首に金の冕を戴き手に利鎌を持て坐せり十五また一人の天使殿より出大なる聲にて雲の上に坐する者に曰けるハ刈時すてに至れり地の穀物すてに熟したり爾の鎌を入れて刈十六雲の上に坐する者その鎌を地に入れれば地の穀物刈取れたり十七また一人の天使天にある殿より出かれも亦利鎌を持り十八また一人の火を掌る權威を有る天使祭壇より出大なる聲にて利鎌を持る者に曰けるハ地の葡萄すてに熟したり爾の利鎌を入れて葡萄の球を刈斂めよ十九天使その鎌を地に入地の葡萄を刈斂めて神の怒の大なる醃を投入たり二十城の外にて此醃を踐しに血醃より出て馬の蹄に達ぼに至り廣れること七十五里に及べり

第十五章一我また大にして且奇なる異象の天に現れしを見たり七人の天使末後の七の災殃を持ち神の怒ハ此にて盡る也二我また火の雜たる玻璃の海の如しを見たり且獸を其像におよび其名の數に勝たる者神の琴を執て此玻璃の海の上に立るを見たり三われら神の僕モーセの歌と羔の歌を謳て曰けるハ主

全能の神をんちの行爲が大なるかな妙あるか萬民の王よ爾の道ハ義なるか誠なる哉四主よ誰ハ爾を畏
 ざらんや誰ハ爾の名を崇ざらんや唯をんち聖し萬國の民なんちの前に來りて拜せん爾の義き行爲すでに顯
 れたり○五此後われ觀しに天にて證の幕屋の殿闢たり六七の災殃をける七の天使使潔して光ある布を
 き胸に金の帯を束れて此殿より出七四の活物の一この七人の天使使に世々窮なく在す神の怒を盛る金の
 金梳を予ふ入神の榮光さ權力より出る煙殿に滿たり七の天使使の持る七の災殃の畢まで殿に入こを
 得者なし

第十六章一我また殿より大なる聲いで七の天使に語り曰く往て神の怒を盛る七の金梳を地に
 傾けよ二第一の使者ゆきてその金梳を地に傾けよ獸の印諱ある人其像を拜する人惡かつ苦痛の腫
 物生たり三第二の使者その金梳を海に傾けよ海に死し者の血の如くなりて海にある活物みも死たり四第
 三の使者その金梳を河および水の源に傾けよ其水みな變て血さ爲り五われ水を掌る天使の云る
 言を聞き曰くいま在し昔し存す聖主よ爾の如く審判をなし給ふに因て義なり六なんち聖徒と預言者
 の血を流し彼等に血を予て飲しむ彼等ハ之を受べき者なり七我また聲ありて祭壇より出るを聞き曰く然
 り主たる全能の神よ爾の審判ハ正かつ義なり八第四の使者その金梳を太陽の上に傾けよ太陽火を以て
 人を焼の權を予れたり九人々大熱に焼れて此等の災殃を掌り給ふ神の名を誦り且悔改めず神に榮
 を歸せざりき十第五の使者その金梳を獸の座の上に傾けよ其國暗なり人みな痛苦に因て其舌を嚥たり
 十一又その痛苦さ腫物さの故に因て天の神を誦り己が行を悔改めざりき十二第六の使者その金梳を大河
 ユフラテに傾けよ其水涸盡たり是東方の諸王の路を備ふ爲なり十三我また龍の口さ獸の口及び偽の預
 言者の口より蛙に似る三の汚たる靈の出るを見たり十四此ハ惡魔の靈なり異なる跡を行ひて全地の諸王に就
 り彼等をして全能の神の大なる日の戰に集らしむ十五視よ我盜賊の如して來らし禳程にて行き羞處
 を見るよこ無らん爲に目を醒し衣を着る者ハ福あり十六かの三の靈諸王たちをヘアルの音にてハル

マゲドンよぶ所に集たり十七第七の使者その金梳を空中に傾けよ大なる聲天の殿の中なる寶座より
 出て曰けるハ既に成り十八此さき許多の聲迅雷閃電また大なる地震ありき人の地に出しより以來の如
 き大なる地震ありし事なし十九大なる邑三になり異邦人の諸の城傾たり神大なるパピロンを憶起し
 て之に己の劇き怒の酒を盛たる杯を予へ給へり二十諸の島は遁去もろくの山ハ見なく爲り二一また
 大なる雷天より人々の上に降り電ごとに重さ約そ一タラントあり人々電の災に因て神を誦れり蓋この
 災甚しく大あれバ也

第十七章一七の金梳をける七人の天使の其一人きたりて我に語り曰けるハ來れ我なんち多の水の上
 に坐する大淫婦の審判を示さん二地の王等これ淫を行ひ地に住る者その淫亂の酒に酔たり三われ靈に感じ
 携へられて野にゆき絳色の獸に乗る婦を見たり此獸あまれく體に僭妾の名あり又七の首さ十の角あり
 四この婦紫さ緋の衣を纏ひ金さ寶石さ眞珠を以て身を飾り手に憎べきもの及び己が好淫の穢を盛る金の
 杯を持五その額に名を書せり云く興義大なるパピロン地の淫婦さ憎むべき者さの母六我此婦の聖徒の
 地に酔イエスの證を作し者等の血に酔たるを見たり我この婦を見て大に駭き異めり七天使われに曰け
 るハ爾なにゆゑ駭くや我なんち此婦および之に乗する七の首十の角ある獸の興義を語ん八爾が見し獸
 ハ昔には有しが今ハ無のち無底坑より上りて沈淪に往ん世の始より生命の册に其名を録されざる地に住る
 もの昔にあり今あらす後また出る獸を見て駭かん九爰に智慧の心あるべし此七の首ハ婦の坐する七の山
 なり十七の王あり其五ハ既に傾て一ハ尙あり餘の一ハ未だ來らず來らば暫く止らん十一昔に在り今
 あらざる獸ハ第八なり即ち七の王より出し者にて終に沈淪に往ん十二爾が見し十の角ハ十の王なり彼等ハ
 未だ國を得ざれども此獸さ僭に一時のあひだ王の如き權威を執べし十三彼等ハみな同心にて己が能力
 さ權威を彼の獸に予ふ十四これら羔さ戰はん而して羔これに勝なり蓋羔ハ諸の主の主王の王こ
 れさ僭にある者ハみな召れ選れたる忠信の者なるに因十五天使また我にいふ淫婦の坐する所の爾が見

水ハ庶民、群衆、諸國、諸音ナリ 十六 爾が見し十の角ニ獸ハ夫の淫婦を憎み之をして荒墟ハつ標程ニ爲しむ又その肉を食ひ火を以て之を焚べし 十七 蓋彼等に神の旨に 循ふの心を予へ彼等をして心を同うせしめ且神の言の悉く成まで其國を獸に 予しめ給へば也 十八 爾が見し婦ハ地の諸王に王たる大なる城邑ナリ

第十八章 此後われ又一人の天使の大なる權威を有て天より降るを見その榮地を照し輝けりニこれ大なる聲にて呼り曰けるハ大なるバビロン傾たり傾たり今惡魔の住處また各様の汚たる靈および穢たる憎べき鳥の巢を爲り三その萬國の民ハ奸淫に因て干る惡の酒をのみ地の諸王ハ淫を行ひ地の商買ハ甚しき奢華に由て富を致げ也 四 我また天より聲あるを聞り曰わが民ハ爾曹ハ其の罪に共に與りまた彼の災に共に遇ふを免れんが爲その中を出べし 五 され彼が罪ハ積りて天に至り神その不義を心に記給へり六 彼が爾曹に爲し如く彼に爲その行を照し倍して之に報い彼が罰予し杯に爾曹また倍して之に罰予へよ七 彼が自ら高ぶり自ら奢れる如く亦痛苦惡哀を彼に予へよ 八 彼の中に謂われハ女王の位に坐す我ハ寡婦に非ず我が哀れす悲哀に遇じ 九 是故に 諸の災殃一日の間に彼の身に來らん則ち死、悲哀、饑饉ナリ彼また火にて焚盡されん蓋彼を鞠給ふ主たる神ハ能力ある者なれば也 九 彼が淫を行ひ彼と共に奢華を爲す地の諸王ハ彼が焚く煙を見て之を爲に哭き哀まん 十 諸王ハ彼が受る痛苦を畏れ遙に離れ立て曰ん哀き哉哀き哉大なる巴ビロン堅固なる邑爾が受る審判一時の間に至れり 十一 地の商買これ爲に哭き哀き哉哀き哉大なる巴ビロン堅固なる邑爾が受る審判一時の間に至れり 十二 其の貨物ハ金銀、寶石、眞珠、細麻布、紫に染し物、綿、緋に染し物、各様の香料、象牙各様の器、皿、價、貴き木或ハ眞鍮或ハ鐵あるハハ磁石にて作る各様の器、皿、また肉桂、香料、香、膏、沒藥、乳香、葡萄酒、油、麥粉、麥、牛、羊、馬、車、奴隸、および人の魂ナリ 十三 巴ビロン 爾が心 嗜る果穀の熟期すてに過去すべの奢れる華美のもの既に亡ぶ復これを見ざるべし 十五 此等の物を販ひバビロンの爲に富を致し者等バビロンの受る 苦を畏れ遙に離れ

立ち 哀み曰けるハ 十六 哀き哉哀き哉細麻布を紫に染し物を纏ひ金、寶石、眞珠にて飾たる大なる城邑此の如き大なる富一時の間に消滅ん 十八 凡の舟長海を航る人々及び舟子と海に由て生業を作物のバビロンの燃る煙を見けるハ離れ立て喊叫いひけるハ何の邑か此大なる邑に比ぶ可んや 十九 また塵を首の上に散布し哭き哀つ 二十 叫び曰けるハ哀き哉哀き哉この大なる邑その奢侈に由て凡て海に舟を有る者の富を得たる此邑一時の間に滅し 二十 天よ聖徒使徒預言者ハ爾曹これを喜べし神なんちらの爲に之を審判給へる也 二一 一人の強き天の使磨の如き巨なる石を取これを海に投て曰けるハ大なる城バビロン此の如く烈しく打仆されて再び顯る事あらん 二二 巴ビロンハ爾の中に琴をひき樂を奏し笛をふき箏を鳴す聲重れて聞えず各様の工人重れて見えず磨の音重れて聞えず 二三 火燈の光りて輝す新耶婦の聲がされて聞えざるべし 蓋あんちの商人ハ地の尊貴者なれば也 また萬國の民あんちの魔術に惑されれば也 二四 預言者聖徒および凡て地に在て殺されたる者の血は此邑に見えたり

第十九章 此後われ許多の人の呼が如き大なる聲の天に在を聞り曰ハレルヤ救さ 榮さ 權力ハ我儕の神の有ち給ふ所なり 二 審判ハ直かつ義あり蓋神の淫乱に因て世界を汚したる大淫婦を鞠き己が 僕等の血の報を求て之を罰し給へば也 三 され再ハレルヤ言り淫婦を焚火の煙のぼりて世々熄時を 四 二十四人の長老および四の活物寶座に坐し給ふ所の神を伏拜てアメンハレルヤ言へり 五 聲寶座より出ていふ人の長 長老および四の活物寶座に坐し給ふ所の神を伏拜てアメンハレルヤ言へり 六 我おほくの人の聲の如く多の水の音の如く大なる雷の聲の如き聲を聞り曰ハレルヤ夫主ある全能の神ハ王なり 七 われら喜び樂みて神を崇めん 蓋 羔の婚姻の期すてに至り其婚すてに自ら 備をなし畢たれば也 八 婦ハ潔して光ある細布を衣こそを許さる此細布ハ聖徒の義あり 九 天使われに曰けるハ 羔の婚姻の筈に招れたる者ハ福なり 十 書記せ又われに曰これ神の眞の言あり 十一 我その足下に俯伏して拜せん 爲ければ彼我にいふ然すべからず 懼めよ我も爾と 同く 僕なり 亦イエスの證を有つ爾の兄弟と 同く 僕なり 爾たゞ神を拜せよイエスの證を

立つる靈と預言の靈と殊なる事なし○十一 我また天の國を觀しに一匹の白馬あり之に乗るもの忠信また誠實
 と稱らる彼の義を以て審判と戦争を爲せり十二 その目の火の如く其首の多の冕を冠れり又録せる名あり
 り彼の外之を識者なし十三 彼の血に染たる衣を纏へり彼の名は神の言に云ふ天にある諸軍統帥の
 細布を白馬に乗て之に從へり十五 彼の口より利劍いづ之を以て列國の民を撃つ諸軍統帥を以て列國の
 民を散らし彼また全能の神の甚しき怒の醜を踐十六 彼が衣と腰に録せる名あり曰く諸王の王諸主の
 主十七 我また一人の天使の日の中に立るを見たり彼空中に飛鳥に大なる聲にて呼曰ける爾曹神の
 大なる筵に集り來り十八 諸王の肉將軍の肉勇士の肉馬之に乗る者の肉および自主奴隷大と小との別
 なく凡の人の肉を食へ十九 我の獸地の諸王および其軍隊の既に集りて白馬に乗る者および其軍隊と戦
 はんを爲を見たり二十 獸と偽の預言者と共に擧にせらる此偽の預言者前に獸の前にて異なる跡を行
 ひ獸の印誌を受たる者および其像を拜する者を感じし者あり此二一のもの生ながら硫磺にて燃る火の池に投
 入れられ二一その餘の者の白馬に乗る者の口より出る所の劍にて殺れたり諸の鳥かれらの肉を食ひて飽

第二十章一われ一人の天使底あき坑の鑰を手に携へて天より降るを見たり二かれ黒魔と稱
 へサタンと稱る龍すなりち老蛇を執て之を千年のあひだ縛置んとす三之を底なき坑に投入れ閉こめて其
 土に封をさし千年過るまで諸國の民を惑すこと莫らしむ其後かならず暫時のあひだ釋放さるべし四我は
 くの座位を見し其上に坐する者あり彼等審判の權を予らる又イエスの證および神の道の爲に首斬れたる者
 の靈魂を見たり此の獸と其像を拜せず其印誌を額あるひ手を受ざりし者の靈魂なり皆生てキリストと共に
 千年の間王と作り五其他の死人の千年終まで懸らざる也六この復生なり六この第一の復生に
 興る者の福なり是聖者なり此輩の上に第二の死の權を執こと能す彼等ハ神とキリストの祭司と作キ
 リストと共に千年の間王たるべし七千年終てサタン其囚より釋放さるべし八かれ出て地の四方の列

邦ゴアとマゴアを惑し之を集あつめたくは
 と愛せらるる城を圍む此時に火天より降りて彼等を焚盡せり十彼等を惑しし惡魔火と硫磺の池に投入れ
 たり即ち獸および偽の預言者の居る地と天と其前を過て再び留るべき處を得ず十一我また死し者の大と小
 大なる寶座と之に坐する者を見る地と天と其前を過て再び留るべき處を得ず十二我また死し者の大と小
 との別なく皆神の前に立を見たり其處に書ありて展く別に又一の書ありて展くこれ生命の書あり死し者ハ皆
 書に録せる所の事に由るの行に循ひて審判を受る也十三海その中の死人を出し死し陰府と其中の死人を
 出せり彼等もの行に循ひて審判を受たり十四 死し陰府と火の池に投入られたり是第二の死なり
 十五 凡て生命の書に録されざる者も亦火の池に投入られたり

第二十一章 われ新しき天と新しき地を見たり先の天と先の地の既に過ぎり海も亦有となし二われ 聖城
 なる新しきエルサレム 備整ひ神の所を出て天より降るを見その状ハ新婦その新郎を迎へん爲に修飾たる
 が如し三われ大なる聲の天より出るを聞き云く神の幕屋人の間にあり神人と共に住人神の民となり神また
 人と共に在して其神と爲給ふなり四神かれらの目の涙を悉く拭さり復死あらず哀み哭き痛み有ることなし
 蓋前事すでに過去なり五寶座に坐する者われに曰ける見よ我萬物を新にせん又我に曰ける爾これ
 を書記せ蓋この言の信す可して確實なれば也六かれ我に曰ける既に成り我ハアルパ也オメガなり始なり終
 なり渴者に價なしに生命の水の源にて飲事を許さん七勝をうる者ハ此等の物を得て其業を爲ん我れ
 の神となり彼れが子と爲べし八然と臆する者信せざる者憎む可もの人を殺すもの奸淫を行ふもの魔術を
 す者偶像を拜する者および凡て詭を言ものハ火と硫磺の燃る池にて其報を受べし是第二の死なり九
 宋後の七の災殃の盛る七の金椀を執る七人の天使の一人來りて我に語り曰ける來れ我なんちに蓋
 の妻なる新婦を見せん十われ靈に感じて天使に携へられて大なる高山に至れり此にて我に大なる城聖
 エルサレム神の榮を以て神の所を出て天より降るを示す十一 其城の光輝くこと至貴き玉の如く澄徹る

金剛石の如し十二此に大なる高き石垣ありて十二門あり其門に十二の天使をれり門の上に名を書せり
 イスラエルの十二の支派の名なり十三東に三の門あり北に三の門あり南に三の門あり西に三の門あり十四城
 の石垣に十二の基址あり其上に羔の十二使徒の名あり十五我に語れる者城と門と石垣とを測ん爲に金の竿
 を持たり十六城の四方にして長さ闊さ同じ天の使の竿を以て城を測しに六百り長さ闊さ共に相等
 し十七又その石垣を測りしに人の度に從へば百四十四キユビトあり人の度天の使の度と同じ十八石垣
 の金剛石にて築き城の清潔なる玻璃の如き純金にて造れり十九城の基址の各様の玉にて飾れり第
 一の基址の金剛石第二の青玉第三の赤玉第四の緑の玉第五の紅の玉第六の瑪瑙第七の黄色の玉第七
 の薄き黄色の玉第八の水色の玉第九の紅の玉第十の翡翠第十一の深紅の玉第十二の紫
 の玉なり二十の門の十二の眞珠なり一の眞珠にて一の門を造り城の衛の澄澈る玻璃の如き純金なり
 二三われ城の中に殿あるを見ず蓋主たる全能の神および羔の殿あり也二三また城に日月の照ることを
 ず蓋神の榮光これを照し且羔城の月燈あり也二四萬の國の民の光に藉て行まん地の諸王おのれ
 の榮を尊貴を以て此城に來らん二五その門の終日さす此に夜ある事なし二六萬の民己の榮を尊貴を
 を以て此城に來らん二七凡て潔らざる者憎べき行を爲もの或ハ謊をいふ者ハ必ず此に入ることを得ず唯
 羔の生命の書に録されたる者のみ入なり

第二十二章 一天使生命の水を河を我に示せり其水澄澈りて水晶の如し神と羔の寶座より出二城
 の衛の中および河の左右に生命の樹あり十二種の果を結び一種を月ごとに結ぶ也其樹の葉萬國の民を醫す
 べし三重て呪詛あることなし神と羔の寶座そこに在るの僕これに事ん四僕ども神の面をみ神の名かれら
 の額に在べし五彼處にハ夜あることなく燈の光と日の光とを用ることなく蓋主たる神かれらに照し給へば
 也かれらハ世々窮なく王たらん六天使また我に曰けるハ此言ハ信す可して誠實なり預言者の靈魂の
 神なる主速かに成んことを其衆僕に示すために其使者を遣せり七われ速かに至らん此書の預言の

言を守る者の福なり○ハ我ヨハ子此等の事を見聞せしとき我に此等の事を示せる天使の
 足下に俯伏して拜せんを爲けれ九かれ我にいふ然すべからず慎めよ我ハ爾と同一僕あり亦あんちの兄
 弟ある預言者及び此書の言を守る者と同じ僕あり爾た神を拜せよ十彼また我に曰けるハ此書の預言の
 言を封すること勿れ蓋時近ければ也十一不義者ハ不義ある任にし穢者ハ穢き任にし義者ハ義なる
 任にし聖者ハ聖き任にせよ十二われ速かに至らん必ず應報あり各人の行ふ所に循ひて之に報べし十三我
 ハアルパ也オメガあり首先なり末後なり始なり終なり十四その衣を洗ひし者ハ福なり彼等ハ生命の樹の果
 を受ることを得また門より城に入ることを得べし十五大および魔術を爲もの奸淫を行ふもの人を殺すもの偶像
 を拜する者また凡て謊言を好て虚妄を行ふ者ハ城の外に居なり十六我イエスわが使者を遣して此事を爾曹
 諸教會に證す我ハダビデの根また其苗裔なり我ハ輝く星なり十七靈と新婦といふ來れよ之を
 聞者も來れよハ渴者ハ來るへし願ふ者ハ償なしに生命の水を飲べし十八我の書の預言の言を聞者に證
 をなす若この書の預言の言に加る者あれば神の書に録す所の災を以て之に加へん十九若この書の預言
 の言を削る者あれば神の書にして此書に録す所の生命の樹の果と聖城とに與ること莫らしむ二十此事を證
 する者いひけるハ我必らず速かに至らんアメン主イエスよ來り給へニ願くハ主イエスの恩寵すべての聖徒
 と共に在んことを

終

